2006年度 社団法人 呉青年会議所

事 業 報 告 書

JCI　2006年度　社団法人呉青年会議所

スローガン

基本方針

1．「いのちの大切さ」を実感する道徳心あふれるまちづくり

2．「賑やかさ」あふれるまちづくり

3．「常にトップを目指す」頼もしいひとづくり

4．温故知新を兼ね備えた組織運営

2006年度　事業報告書

contents

Ⅰ　理事長報告……1

Ⅱ　副理事長報告……5

Ⅲ　専務理事報告……9

Ⅳ　事務局長報告……11

Ⅴ　愛と感謝の実践室……13

1．愛と感謝の実践室……14

2．こころのまちづくり委員会……14

3．笑顔のまちづくり委員会……16

Ⅵ　志推進共育室……19

1．志推進共育室……20

2．アカデミー委員会……20

3．気概ある会員共育実践委員会……22

Ⅶ　笑顔あふれる総務室……27

1．笑顔あふれる総務室……28

2．集まれ呉ＪＣ発信委員会……28

3．規律ある組織の和推進委員会……30

Ⅷ　セクレタリー報告……33

Ⅸ　出向者報告……35

1．ＪＣＩ副会頭報告……36

2．広島ブロック協議会会長報告……37

3．広島ブロック協議会運営専務報告…39

4．広島ブロック協議会
総務渉外委員会委員長報告……40

Ⅹ　収支決算報告……41

Ⅰ　理事長報告

■理事長報告■

理事長　松本　明彦

『まち　ひとの為　尽　おもしろい！　行ってみたい！』

2006年度社団法人呉青年会議所は、「まち　ひとの為　尽（つくす）　おもしろい！　行ってみたい！」のスローガンのもと、４つの基本方針を柱に１年間事業を展開してまいりました。

「いのちの大切さ」を実感する道徳心あふれるまちづくり

今年は「いのち」に関して、考える機会が多い年であったように思います。いじめによる小中高生の自殺、親の子に対する虐待・殺傷事件、少年・少女による親への殺傷事件など、尊い命が犠牲になる報道に心を痛めました。そのような世情の中で、ひろしま農家村塾「がんぼ村」事業を展開させて頂きました。休耕田を利用し、米作り、野菜作り、家畜（ニワトリ・アイガモ）の飼育に取り組み、ＪＣメンバーはもちろんのこと、多くの一般市民の方々にご参加頂きました。この事業を通じて、日頃、当たり前のように食卓に並ぶ食事が、どのような過程を経て生産されているのかを、身を持って、直に感じ取り、吸収することが出来たと思います。また、家畜の飼育により、雛から成長を観察し、日頃の餌やりや小屋の掃除を通じて、生き物の世話の大変さも実感しました。その家畜も、最後は、食肉にして米や野菜などと共に、感謝の気持ちを感じながら頂く機会にも恵まれました。

この事業を通じて、特に参加して頂いた子供たちには、「いのちの大切さ」「食に対する感謝の気持ち」を実感して頂けたと自負いたしております。今後もこのような事業を通じて、人のいのちは、多くの植物や動物たちのいのちの上に成り立ち、人だけでは生きて行けないという「いのちの大切さ」を実感し、自分以外の人に対しての思いやりや、人以外の動植物への敬愛の気持ちを育むことができるよう、そして、現代の子供たちを取り巻く、世界中で起きている憂える事態が無くなる日を目指して、地域で地道に取り組む活動を今後も実践していきたいと思います。

「賑やかさ」あふれるまちづくり

呉地域には、昨年開館した「大和ミュージアム」をはじめ、大和ブームにより多くの方々にお越し頂いています。来年は、退役潜水艦を展示する海上自衛隊資料館「鉄のクジラ館」が開館予定で、呉のまちに新しい風が吹き込まれます。

今年は、呉地域の代表的な祭り、「みなと祭り」「花火大会」に積極的に参加して、祭りの「賑やかさ」を市民の方々と一緒に体感することができました。メンバーには、こうした取り組みを通じて得た経験を、自分たちの地域の祭りや自治会活動に参加する時の糧として頂きたい、という強い想いがあります。ＪＣメンバーである前に、生活している地域でこそ、地域の方々と共に汗を流し、地域づくり・まちづくりをして頂きたいと切に願います。

「常にトップを目指す」頼もしいひとづくり

会社・企業を経営する立場、又は指導者的な立場の人間が集う組織の一員として、メンバーの誰もが抱くのは、「業績向上･地域社会への貢献」に常に尽力できる、そんな頼もしい人間になりたいという、強い願望であろうと思います。その願望を実現すべく、様々な事業を通じて研究を重ね、また呉市長や経営戦略セミナーの講師を招き自分達を研いた年でもありました。また、会社・仕事だけに限らず、組織の中、家庭の中で、常に志を高く持って、資質の向上を目指しました。仕事でも家庭（家族）でも青年会議所活動でも、常にトップを目指す心意気で活動する気概を、持ち続けましょう。また、新しく15名の新入会員に呉青年会議所の門を叩いて頂き、新しい風を吹き込んで頂きました。この中から、何人の理事長が誕生するのか、楽しみでなりません。

2006年度は、社団法人呉青年会議所より国際青年会議所の常任副会頭、社団法人日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会会長を輩出する年となり、それに伴い多くの出向者を輩出し、ＡＳＰＡＣ（高松)、世界会議（韓国・ソウル)、全国の各種大会・会議にて、呉青年会議所・呉地域の発信を大いにできる機会にも恵まれました。

温故知新を兼ね備えた組織運営

54年目を迎えた団体として、特に率先垂範のもと、伝統を重んじ、規律規範の充実した組織運営に努めてまいりました。また、会員交流事業をメンバー、家族向けに盛大に行い、常日頃の活動の中からだけでは感じ取れないメンバーの家族を含めたコミュニケーションの一助としました。

特別会員数も300名を数える団体となり、より多くの特別会員の皆様との交流･懇親が課題となる中、現役メンバーの活動を活字にして、個々の元へ発信することにより、コミュニケーションの一助としました。積極的に、マスコミにも事業活動を発信して、新聞等へも掲載して頂きました。

2007年度は、社団法人日本青年会議所第56代会頭に奥原祥司君を輩出する年となります。これは、これまで諸先輩方が築き上げて来られてきた実績に裏打ちされた功績の賜物と思います。会頭はもちろんのこと11名の会頭補佐を輩出して、全国各地で、呉地域を発信できる機会に恵まれます。現役全員一丸となって輝いてまいりましょう。

最後に

仕事で、一番頭を使い、汗も流そう！
家庭で幸せを感じよう！
地域・まちのために、たくさんの笑顔を作ろう！

メンバー一人ひとりの能力を結集して、自信を持って邁進した１年間でございました。事業にご参加頂いた市民の方々に深いご理解とご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

本当にたくさんの感動・感激をありがとうございました。

呉地域の発展のために、更に尽力してまいりましょう！

II　副理事長報告

■副理事長報告■

副理事長　西本　昭裕

「おもしろきこともなき世を面白く」これが私の年当初の2006年度社団法人呉青年会議所の副理事長としてのスローガンです。

誤解を恐れず申し上げますと、青年会議所運動そして青年会議所活動は「楽しい」ものでは無いと私は思っています。それは、国、そして地域のために活動し、真に明るく豊かな社会を生み出す運動をしている自分が「自身の楽しさ」を基準にしているようでは、地域にも国のためにも何にもなっていないと思うからです。

2006年度は「まちひとの為“尽”おもしろい！行ってみたい！」をスローガンに事業を企画し各ラインの大きな目的として議論し実践してまいりました。私が担当させていただいた ひとづくり室では、会員拡大・仮入会員育成・青年経済人としての成長・業績向上という具体的なテーマのなか、１年間遂行して参りました。どれも、言ってみれば「おもしろそう」でなく、「行ってみたい」とは思えないようなテーマかもしれません。このテーマに、前田室長を始めとして島田委員長・吉田委員長そしてスタッフ、委員会メンバーには本当に真剣に取り組んでいただきました。

会員募集は本当に辛く苦しいものです。しかし島田委員長は、短い期間で15名という仮入会員を集めました。そして４月からは、厳しくそして愛を持って「奉仕」「修練」「友情」そして「夢を持つこと」「困難に立ち向かう勇気」を、３回のセミナーでの体感、先輩の貴重なお話しや、日々の例会・事業を通して伝えました。その結果、彼らは呉ＪＣの人財となる新入会員となって、私たちの仲間に加わってくれることとなりました。

また吉田委員長には、近年、社団法人呉青年会議所では行ってこなかった「ビジネス系」の事業を、「青年経済人の成長」と「業績向上」という具体的なテーマのもと、戦略発想〈呉ＪＣメンバーが戦略を構築できるようになる〉という明確な目的を持って、４回の担当例会でセミナーとして実践しました。さらに毎月の情報誌発行、11月のオープン委員会の実施そして戦略プログラムＤＶＤの製作など、最後の最後まで遂行していただいた結果、今年度だけでなく今後のメンバーに活きるものが残せたと思います。

これらの委員会は、ＪＣ内部だけのことのように思えます。しかし、「おもしろそう」でなく、「行ってみたい」と思えない事業を「おもしろい！行ってみたい！」事業に切磋琢磨して作り上げることで、雨に洗い風に磨かれ、彼らは大きく成長致しました。さらに事業を通してメンバーに伝えることが出来たと思います。この成長した人材だからこそ、国に地域に貢献できるＪＡＹＳＥＥとなれるのです。私たち、ひとづくり室の役割とは、正にそれを実践していくことだったと思います。このように無事１年間を終えることが出来るのは、前田室長・島田・吉田両委員長、スタッフそして委員会メンバーの皆さんのおかげと心から感謝しています。本当にありがとうございました。これからも互いに頑張りましょう！

■副理事長報告■

副理事長　岩本　貴紀

青年会議所のあるべき姿とは？いつも自問自答しながら１年間活動してまいりました。54年間の歴史の上に成り立つ､社団法人　呉青年会議所の役割は地域の発展のためにあるべきだと思います。

しかしながら、組織として存在する為には、組織である以上、規律規範・ルールがあり、それを遵守することにより、秩序が保たれ、厳粛さが生まれ、その上に意識の統一感が生じ、和み・華やかさ・やさしさが感じられる雰囲気が醸し出されていきます。内部の仲間意識が強靱であれば、その力が相乗効果を生んで、地域の為になる素晴らしい事業が展開できると思います。

そして、広報活動として各マスコミと連携して、意識的に発信していくことで、青年会議所活動をより理解していただけたとおもいます。

もっとも効果的な広報活動とは、より地域の為になる、楽しそうで、参加してみたいという事業を展開していく中で、その事業展開自体がより効果的な広報活動になり、市民の皆様により理解していただけるのではないでしょうか。

公益法人改革が進んでいく中で、より公益性の高い、事業展開が求められていくようになります。この１年間、時勢、時流を踏まえた上での活動を心がけてまいりました。来年度はますます、こういった公的要素が強く求められていくことと思います。来年もますます、社団法人　呉青年会議所が発展し明るい豊かな街づくりに貢献できるように、活動してまいります。１年間有難う御座いました。

■副理事長報告■

副理事長　奥原　誠次郎

一年を通じて職責の中で考えさせられた事は、青年会議所の独特な運営形態と社会ニーズとのバランス。社会から求められているＪＣの存在価値とは何なんでしょうか？

大きなテーマを持ちながら、本年度副理事長の大役を仰せつかり、主に組織全体の潤滑運営と外部向け事業の策定に取り組んで参りましたが、会員の皆様並びに周辺各所の方々のご支援のお陰を持ちまして、無事その職務を全うすることが出来ました。担当の「愛と感謝の実践室」では、２委員会がそれぞれ「感謝のこころ」と「賑やかさ」の両キーワードが溢れるまちづくりを目指し、例年には無い手法やエネルギーをかけて、その実践に努めて参りました。様々なご意見を頂きながらも、増木・青山委員長を中心に、スタッフ・メンバーが一丸となり、櫻井室長のもとでその初志を外すことなく事業をやり遂げる事が出来ました。その行動力に心より敬服すると共に、その裏には、松本理事長を初めとする各理事の深い理解と主体性があってこそ、熱意を失うこと無く完遂できたものと感謝しております。

青年会議所とは、「明るい豊かな街づくり」の為、その時々の時代背景の中で社会ニーズにいち早く呼応し、行政や経済活動並びにその他市民活動では挑戦し得ない革新的施策を体現してみせる人材集合体・会議体であると改めて強く認識し、それら共感してもらえる仲間を増やし、強く連携して、青年会議所らしい活動を引き続き闊達に推進して参ることお約束しまして、当該年度小役の報告に替えさせて頂きます。一年間、有難う御座いました。

Ⅲ　専務理事報告

■ 専務理事報告 ■

専務理事　小松　義人

本年度は、ＪＣマークの変更に始まり、運営面において、過去に事例のないことがたくさんあった１年でした。今、振り返るとその度に一喜一憂していたように思います。

特に2007年度㈳日本青年会議所会頭立候補、当選に際しては、㈳呉青年会議所史上初の名誉であることと同時に今後の支援体制等、現実的な問題をどうクリアし、メンバー、特別会員の皆様にこの名誉を如何に盛り上げていくべきか議論を尽くしました。

専務理事とは全運営の責任者であり、青年会議所活動を船に例えると、理事長は船長、専務理事は船の舵取りとよく言われます。船の舵を取るには、潮の流れ、風向きを冷静に判断しなくてはなりません。そのことを十分に頭に叩き込んで、１年間職務を全うさせて頂きました。１年を終えて今思うことは、専務理事は時勢・時流を把握しながら、2006年度㈳呉青年会議所の目指している方向(理事長所信•基本方針に沿っているか)、メンバーの雰囲気(事業を遂行していく上でのメンバーの反応）を冷静に判断し、大きく方向性を変えるときは、覚悟を決めて勇気を持って運営していかなければならないということを痛切に感じました。

本年度は個性あふれる６人の委員長に、松本理事長が掲げられた基本方針に沿って、独創性豊かな事業を展開して頂きました。

ほぼ１年という長い期間をかけて、人間が生きていく上で最も大事なことを伝えていく事業、既存の祭りに新たな風を吹き込んでいく事業、現在の経済状況下ではなかなか容易ではない新入会員の募集と教育を行う事業、青年経済人としてメンバーの業績向上を目的とした事業、㈳呉青年会議所の事業を広報していく上で、マスコミとのネットワークを構築した事業、公益法人制度改革を目前に控えながらも、メンバー交流の大切さを今一度見直した事業等、それぞれの事業を運営していく上にはさまざまな高いハードルがありました。そのハードルを議論を重ね、見事にクリアして頂いた委員長の皆様、委員長を支えて頂いた室長の皆様、最後は、「俺に任せろ！」と力強い言葉を頂いた副理事長の皆様に感謝申し上げます。

本年度、専務理事として、青年会議所活動に費やした日数は、200日を数えました。本当に忙しく奔走した日々でしたが、私自身、色々な面で大きな成長を遂げることができたのではないかと思います。最後まで、伝統ある㈳呉青年会議所の専務理事の職務を全うできたことを今後の私の誇りと自信にしたいと思います。

最後に、いつも大きな心で私の運営を見守って頂いた松本理事長をはじめとする正副の皆様、庶務に追われる私を支えて頂いた佐伯事務局長、セクレタリーの皆様、何より、「やや強引」な運営に深いご理解を頂き、ご協力頂いたメンバーの皆様に感謝申し上げます。

一年間、ありがとうございました。

Ⅳ　事務局長報告

■事務局長報告■

事務局長　佐伯　陽子

本年度は事務局において、適正且つ迅速な事務・会計作業の遂行を念頭に置き、１年間、局務を務めさせていただきました。事務作業につきましては、発送物・FAX送信等、通信手段の見直し・コストの削減を始め、小事な所からではありますが、スムーズな事務処理を心がけ、また会計作業につきましては、歴任者の方々の好例を常に参考とさせていただきながら、公正・明確・適正な予算運営に努めてまいりました。

公益法人制度改革が施行され、遵守すべき制度基準は高まりを増すばかりです。今後、より一層明瞭で効率よく、事務運営を行うためにも、会計処理の合理化を図る必要性を強く感じました。ＪＣカードによる会費・登録料納入など、予算運用が厳しくなっている昨今の状況も踏まえ、財源確保に効果的な方法を取り入れて、合理化を進めていくことが今後の課題になると考えます。

不慣れで勉強不足ゆえに残した課題も多く、ご迷惑をお掛けする事ばかりでしたが、皆さまの助けをお借りして、何とか一年間の運営を無事遂行できたように思います。最後の責務として、次年度担当者に、しっかりと職務引継ぎをすることが、助けを頂いた皆様に対する務めであるように思います。本当にありがとうございました。

私が、「５Ｗ１Ｈ」の言葉を始めて聞いたのは、中学校の英語の時間です。

「いつ、どこで、だれが、どんなことを、なんのために、どうやって」

我々の活動内容、そして予算が、これら全てに対する説明責任を果たしているかどうか、「公益法人制度改革」では、それが改めて問われる機会ではないでしょうか。

できて当たり前のことなのかもしれませんが、「無いように見えて、実は常に在り続ける高いハードル」のようにも思います。会計担当理事として一年間携わっていながら、安直で浅薄な思いかもしれませんが、これが一年を終えた今の率直な感想です。

まだまだ未熟で若輩ですが、次年度以降も『まち　ひとのために』という、「公のために」を考えた行動ができるよう、呉青年会議所のいちメンバーとして頑張りたいと思います。

最後に、いつも冷静で温かい小松専務理事をはじめ、セクレタリーの皆さん、そしてお世話になった皆さまに心から敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。会計担当ではありましたが、プライスレスな仲間に出会えたことが一番の財産となりました。

一年間ご指導ご協力いただきました全ての皆様に、心より御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

V　愛と感謝の実践室

室 長 報 告

愛と感謝の実践室　室長　櫻井　隆晶

2006年度､｢我おもうゆえに我あり｣をスローガンに掲げ、「愛と感謝の実践室」を担当させて頂きました。

「こころのまちづくり委員会」増木委員長は「感謝」をキーワードに委員会をまとめ、古来よりある「日本人のこころ」、私達の根底に受け継がれているはずの「感性」を切り口に「思いやりのこころの醸成」つまりは道徳心あふれるまちづくりを目指して、“広島農家村塾がんぼ村”という体験型農業を通じて自然とのふれあいの中で命の大切さを参加者の感じていただくという、膨大な作業を伴うかつてないスケールの事業ではございましたが当該委員会メンバーのみならず呉青年会議所のメンバー全員のご協力をいただきながら一年間を通じて展開して参りました。

本事業のキモとして秋の収穫祭におけるアイガモ？の鍋の味はその美味しさとともにその「命」をいただいて私達人間は生きているんだとしみじみと感じたことは今後、忘れえぬ体験として参加者全員に刻みこまれたものと確信いたします。

「笑顔のまちづくり委員会」青山委員長は「海誓山盟」をキーワードに委員会をまとめ“｢賑やかさあふれる｣まちづくり”を創出する為のポテンシャルを秘めた舞台としての価値を“既存する「祭」の中”に見出しつつ事業を展開して参りました。

「呉みなと祭」においては国内より一流のパフォーマーを一同に集めた大道芸を開催し呉海軍カレー、みかんカキ氷のブース出展を行い、｢呉花火大会｣では日本古来の伝統芸能神楽を紹介しつつ呉青年会議所のメンバーによる和太鼓の演舞、参加者による「誓い灯篭」の会場周辺道路への展示を挙行し祭りに参加する市民の笑顔をもたらしつつも既にそこにあるものが持つ真の価値を、メンバーのみならず、呉市民の皆様に改めて認識していただく事ができたのではないかと確信しております。

一年間、当室を支えて頂きました奥原誠次郎副理事長、またラインを越えてあつ～く助言下さった､西本副理事長、岩本副理事長　本当に有難うございました。

また、つたない室の運営で小松専務、佐伯事務局長には大変ご心配とご迷惑をおかけいたしました。最後の最後まで有難うございました。

リーダーとしてどの事業にも誰よりも早く現場に駆け付けて率先して汗を流し、我々を励ましつつもメンバーにその背中を見せ続けていただきました松本理事長、尊敬の念を禁じ得ません。本当に有難うございました。

最後になりますが当室が企画致しました数々の過酷ともいえる事業に一年間お付き合いご協力いただきました呉青年会議所全メンバーに心よりの謝意を表し、室長としての最後のご挨拶といたします。一年間、誠に有難う御座いました。

こころのまちづくり委員会

委員会報告

委員長　増木　芳行

こころのまちづくり委員会では､｢いのちの大切さを実感する道徳心あふれるまちづくり｣に取り組んでまいりました。この背景には、昨今｢いのちの大切さ｣｢感謝のこころ｣「思いやりのこころ」といった大切な部分が、希薄に感じられる場面があるという社会情勢があります。

「いのちを大切にしよう」｢感謝のこころをもとう｣｢思いやりをもってひとと接しよう」このようなことは、言葉の上では誰もが正しいことであると考えるでしょう。しかし、ひとというものは、凶悪犯罪を起こしてしまうようなひとに限らず、私たちにおいても、現代の便利な世の中においては、｢大切なこころ｣をこころの奥底に意識しておかないと、だんだんと薄れてしまうのかもしれません。

では、このようなことをこころの奥底に意識するには、どうすれば良いのか？それはやはり、実際に植物や動物のいのちに触れ、自然に触れ、ひとと触れ合うことで、自然の恵みなどを体験・体感することが一番であると考えました。

スローガンに『感謝』を掲げ、さまざまな体験ができる「ひろしま農家村塾“がんぼ村”」を開設し１年間事業展開してまいりました。私自身も初体験なことばかりで、参加者とともに、いろんな気づきや発見を得ることができました。参加してくださった方々のこころにも何かの形で残っているのではないかと感じております。

最後に、この“がんぼ村”に参加してくださった方々、協力をしてくださった方々、長いスパンの事業に最後まで助けてくださった青年会議所メンバー、皆様に感謝しております。私の未熟さ故の失敗も多々ありましたが、青年会議所メンバーの叱咤激励や、参加者からのお礼のメールなどに励まされ、１年間遂行することができました。

ありがとうございました。

事業報告

〔スローガン〕 **感謝**

事業報告

１．事業名：こころのまちづくり事業　～ひろしま農家村塾“がんぼ村”～「年間計画」

日　時：１月後半～10月後半

場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」

目　的：「いのちの大切さ」を実感していただき、こころ豊かなまちづくりを推進する

方　法：休耕地を利用し、体験型の農業畜産施設を手作りベースでつくり、農作業を中心として、様々な自然体験をしました。

公募による参加者とともに、草刈りや、土作りから田畑の開墾を始め、無農薬有機栽培による野菜づくりや、アイガモ農法による米づくり、ひよこからの鶏飼育、竹細工、川遊び、小屋づくりなど自然を活かした様々な体験をし、体感する中から｢いのちの大切さ｣｢感謝のこころ」を感じ、学んでいただきました。

１年間の事業を以下のように複数に区切り、

事業展開してまいりました。
「村づくり編」「村びらき編」「運営編」「ありがとうの灯火編」「真夏のがんぼ村編」「秋の収穫祭編」「未来編」

結　果：ほぼ毎週日曜日を運営日とし、のべ1000名を超える参加がありました。
さまざまなアプローチをしましたが、大人においても、子どもにおいても、土を掘り、種を蒔き、世話をし、収穫するという生育の過程を体験・体感することで、得られるものが一番大きかったようであります。知識だけでは得られない大切なこころを感じていただけたと思います。

2．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「村づくり編」

日　時：１月29日～４月21日
場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」
目　的：よりたくさんの市民に『「いのちの大切さ」を実感していただき、こころ豊かなまちづくりを推進する』ため、参加者の募集および、事業実施場所の整備を参加者とともに行う。
方　法：新聞や、広報誌、ホームページ、ポスター、チラシを利用した参加者の公募。公募した参加者とともに、「村びらき」に向け、草刈り、田んぼづくり、畑作り、駐車場整備、小屋作り、竹柵づくりなどのインフラ整備を行う。
結　果：200名を超える参加応募がありました。
“がんぼ村”は、休耕地を利用し、草刈りや、田畑の開墾から行ってきましたが、この大変な作業が、がんぼ村への愛着や、収穫時の一層の喜びへと繋がっていったのではないでしょうか。

3．事業名：２月例会・第１部　～感謝とかけて、いのちの大切さと説く。そのこころは？～

日　時：２月６日(月)
場　所：シリウスシティ・カンコー　４Ｆ例会場
目　的：年間目的の達成に向けて、メンバーへの周知徹底を促すことを目的とする。
方　法：年間を通じたこころのまちづくり事業について、目的、手法、年間スケジュール概案、当面の予定について、寸劇やパワーポイントを用いた説明等にてメンバーに周知・徹底しました。
結　果：例会という貴重な時間を使用させていただきましたが、年当初に当委員会の目的・手法を周知徹底することで、その後の当委員会の事業展開への助力と成り得たと思います。

4．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「村びらき編」

日　時：４月23日(日)
場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」
目　的：がんぼ村の村びらきを祝い、全員で種まきをし、本格的なスタートを切る
方　法：十数種類の野菜の種まき、苗植え
米の育苗（昔ながらの方法で苗床へもみを蒔く）
ひよこの飼育開始
どろりんピック開催（田んぼを利用したどろんこ運動会）
結　果：200名を超える参加者があり、盛大に村びらきを行いました。
どろりんピックでは、大人も子どももどろんこになって楽しみました。
自らの手で種まきをしたことで、今後の参加へと繋がっていったのではないでしょうか。

5．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「運営編」

日　時：４月23日～10月21日
場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」
目　的：農作物などの日常的な世話を通じて、「いのちの大切さ」「感謝のこころ」を実感していただく
方　法：農作物の水やり・雑草取りなどの世話および、収穫
家畜の世話
川遊びや、竹細工など自然を活かした体験
結　果：地味で大変な作業な作業も多いため、暑い時期など参加者が少なくなることもありましたが、特に親御さんからは、この体験が自分自身感じたものが大きく、また、子どもたちに伝えられることができる一番大きなことだったという声を多数いただきました。

6．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「ありがとうの灯火編」

日　時：７月16日(日)
場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」
目　的：「感謝のこころ」を実感していただく
方　法：竹和紙づくり体験・竹筆づくり体験
夏野菜の収穫
収穫した野菜を使った夕食づくり
アニメ映画「学の夏休み」上映（夜の野外にて）
ありがとうの灯火（かがり火・灯火によるライトアップ）
ホタル見物（降雨により中止）
結　果：竹和紙・竹筆づくりは、ほぼ全員が初体験で子どもも一生懸命つくっていました。アニメ映画は、食べ物を題材に感謝のこころを考える内容で、がんぼ村での体験と重なる部分も多く、楽しみながらも感謝のこころを感じていただけたのではないでしょうか。

7．事業名：８月例会
～ありがとう、こころ豊かなひと～

日　時：２月６日(月)
場　所：シリウスシティ・カンコー　４Ｆ例会場
目　的：年間の目的である「いのちの大切さ」「感謝の

こころ」について学習するとともに、今後の事業への意識統一の場とする
方　法：現況報告と今後の事業展開の説明（ビデオ・パワーポイント）
反省行を中心とした講話（講師：財団法人修養団　武田数宏氏）
結　果：当委員会の考える「いのちの大切さ」「感謝のこころ」について、メンバー皆様に感じていただけ、意識統一が図れたと思います。

8．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「真夏のがんぼ村編」
日　時：８月20日㈰
場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」
目　的：がんぼ村を楽しみ今後の参加へと繋げるとともに、「いのちの大切さ」「感謝のこころ」を体感していただく。
方　法：収穫した農作物を使っての料理
巨大流しそうめん
川あそび・魚釣り
家畜とのふれあい
結　果：巨大流しそうめん（竹を切り作成）は、大変好評でした。聴診器を使って動物の心音を聴いたことは、子どもたちのこころにとても印象に残ったようです。

9．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「秋の収穫祭編」
日　時：10月22日㈰
場　所：安芸郡熊野町「がんぼ村」
目　的：がんぼ村の集大成として、「いのちの大切さ」「感謝のこころ」を実感していただく
方　法：これまでのがんぼ村の経過説明
和太鼓演奏
奉納行事
収穫した農作物、飼育した家畜を使用した料理（もちつき、飯ごう、かもなべ、鶏料理）
とんど焼き
結　果：１年間の集大成としての「秋の収穫祭」は、上記の方法を用い「いただきます」「ごちそうさま」という言葉を軸に事業を行いました。
「いただきます」とは「あなたの力（命）をいただきます」であり、「ごちそうさま」とは「御馳走様」、「馳走」とは走りまわることであり、すなわち、ごはんができるまでに関わったひとへの感謝の言葉であります。単に言葉だけではなく、１年間の体験・体感があればこそ、その意味を感じていただけたと思います。
参加者の中でも小さなおこさんなどは、すぐに理解できないかもしれません。しかし、この体験がいつの日か、こころの醸成に役立つと確信しております。

10．事業名：こころのまちづくり事業
～がんぼ村～「未来編」
日　時：10月28日㈫
場　所：ビューポートくれ　３Ｆ大ホール
目　的：１年間のこころのまちづくり事業の結果検証をし、今後の活動の助力とする
方　法：こころのまちづくり事業の活動報告（ビデオ映像）
参加者からのアンケート結果を元に、事業の効果検証
問題点と解決方法案の提示
旗揚げアンケートによるメンバーの意見交換会
結　果：参加者からのアンケートから、参加者から見た視点での事業の効果を知ることができ、今後の各種活動への参考にしていただけると思います。

笑顔のまちづくり委員会

委員会報告

委員長　青山　茂和

2006年度当委員会では“「賑やかさあふれる」まちづくり”をテーマに活動して参りました。呉に無いものや足りない部分を追い求めていくばかりでなく、既にそこにあるものが持つ真の価値を、ＪＣメンバーのみならず、呉市民の皆様に改めて認識していただくことこそが“「賑やかさあふれる」まちづくり”の推進に欠かせぬものであると信じ、「既存の祭」に参加し、事業を展開してきました。

様々なコンテンツを使用しました。大道芸・海軍カレー・みかんカキ氷・神楽・灯籠・和太鼓…私の説明能力の欠如と相まって、脈絡のない印象を持たれたＪＣメンバーも多かったことと思いますが、それでもなお多大なるご協力をいただけた事に対し深い感謝を覚えるとともに、呉青年会議所の素晴らしさを再認識することができました。おかげさまで「笑顔」を持って呉市民に呉の祭の楽しさを感じてもらえたのではないか、と考えております。

春のみなと祭・夏の花火大会へ向け私が思い悩む中、事業内容だけでなく青年会議所活動の本分を教えて下さった奥原副理事長、私が上程した議案書を真っ直ぐ通し続けてくれた櫻井室長、私の横で深い経験に裏打ちされた助言をささやき続けてくれた脇副委員長、委員会立ち上げの難しい時期を上手くまとめてくれた國本幹事、そして國本幹事退会後に状況が判らない中それでも鋭く動いてくれた宮下幹事と、最後までついてきて下さった当委員会メンバーに御礼を申し上げます。

また、そんな我々笑顔のまちづくり委員会に多くのご協力とご理解をいただいた松本理事長を始めとする呉青年会議所全メンバーに心よりの謝意を表し、委員長としての最後のご挨拶といたします。

一年間誠に有難う御座いました。

事業報告

〔スローガン〕 **海誓山盟**

事業報告

1．事業名：２月例会・第２部
～明日の笑顔のために・その１～

日　時：2006年２月６日㈪　19：50〜20：20
場　所：シリウスシティ・カンコー　４Ｆ例会場
目　的："「賑やかさあふれる」まちづくり"の周知と、"祭参加の必要性"の訴え
方　法：寸劇とパワーポイントを用い、今年度の基本方針のひとつであった"「賑やかさあふれる」まちづくり"について、当委員会の考える方針の周知・徹底を図りました。具体的な方法は以下の通りです。
①目的＝賑やかさとは、数多くの笑顔であると定義し、それを産み出す為2006年度当委員会は活動していく、という事。
②手法＝その為には、"祭"の場で事業を行うのが非常に効果的である、という事。
③呉の祭（みなと祭・夏祭り）の成り立ちと現状分析
④世界の祭（ビール祭・牛追い祭・トマト投げ祭）を紹介する中で各祭の生い立ち・集客の理由を伝えていき、祭の本質を明らかにしていく。
その中で､呉の祭に取り入れられる部分や、参考にすべき部分を浮き彫りにし、次年度当委員会が"笑顔"をテーマに事業展開をしていく理由を伝えました。
⑤呉ＪＣのＯＢへの取材による、みなと祭と呉ＪＣの今までの関係と、これからの呉の祭に対する呉ＪＣのあるべき姿の考察
以上５点の内、①②③⑤は口頭での説明にて行い、④は寸劇形式で伝えました。
結　果：「賑やかさ→笑顔→祭」という①②の部分での論法に、少々強引な部分はあったかと考えますが、聞き手の理解力と優しさもあり、十分伝わったと感じております。
③⑤の部分では、ＪＣメンバーとして持っておいていただきたい知識として"呉の祭の歴史と今までのＪＣの関わり"について説明しましたが、過去を知った上で未来へ向かって行くというスタンス造りまでは届かなかったにしろ、ひとつの蓄蓄としてメンバーに持ち帰っていただくだけでも、意義はあったと考えます。
④の寸劇部分では、所謂"理由なき祭"をとりあげることで、人々が祭の原始的・本能的な面に魅かれるということを理解していただき、"笑顔"という当委員会のテーマを伝えられたと考えております。

２．事業名：４月例会
"〜明日の笑顔のために・その２〜"
日　時：2006年４月３日㈪　19：30〜20：20
場　所：シリウスシティ・カンコー　４Ｆ例会場
目　的：みなと祭へむけての意識統一と祭における群集心理の研究・発表
方　法：以下の手法を用い、笑顔の大切さ・必要性を訴え、みなと祭へ向けての事業内容の周知と意識統一を図りました。
①祭における群集心理の研究・発表
②バルーンアート体験
③大道芸の紹介及び当日の大道芸担当部分の説明
④海軍カレーの由来とレシピ説明・呉のみかんの歴史説明及び当日のみかん・海軍カレー担当部分の説明
⑤日本の奇祭の紹介（寸劇）
⑥祭当日の自分のフェイスペインティング・デザインタイム
⑦みなと祭にむけての決意表明
結　果：①では"笑顔"の必要性を改めて訴え、ご理解いただき、②③④⑥では、みなと祭当日のイメージを持っていただいたのではないか、と考えております。
⑤の寸劇部分では、日本が古くから持つ非常におおらかな独自の祭観を表現し、笑顔とともに伝えることで、本来祭にある根源的な部分を知っていただいたと感じております。

３．事業名：笑顔のまちづくり事業１
"行って見たい！新みなと祭〜春の道〜"
日　時：2006年４月29日㈷　11：30〜17：00
場　所：みなと祭会場各所及び大和ミュージアム周辺
目　的：既存の祭を能動的にバージョンアップさせることにより、祭を通じて笑顔あふれるまちづくりの推進を実施するとともに、内部へ向けては、祭に積極的に参画することで、呉ＪＣの呉における役割を再認識するとともに、まちづくり意識の更なる高揚をメンバーに促すことを目的とした。
方　法：以下の手法を用い、祭を通じて笑顔あふれるまちづくりの推進を図りました。
①大道芸人によるパフォーマンスと市民参加型のジャグリング教室の設営
②ＪＣメンバーによるフェイスペイント・ロービングパフォーマンス
③呉島諸部の特産品"みかん"を用いたＰＲイベントの設営
④大和ミュージアム敷地内での"海軍カレー屋台"の設営
結　果：呉のみなと祭に不足していた「笑顔」を提供し、それによって設営・観覧両サイドの交流を少しでも持っていただき、祭を通して「賑やかさあふれるまちづくりの推進」を図ったのが、今回の事業であります。以下に各コンテンツの効果を記します。
①については、国内一流のパフォーマーを選定したこと、歩行者天国という開放的な場が祭の雰囲気になじみ祭を盛り上げる為の充分な集客力を発揮し、老若男女を問わず観覧されていた人々から"笑顔"を引き出せました。またバルーンアートでは「やってみたい参加してみて面白い」と感じていただいたと感じています。また、バルーンアート教室では子供は勿論、親御さんにも

楽しんでいただけました。

②の手法は、役割分担、シチュエーションの周知徹底不足等により実際にフェイスペイントを行ったメンバーや市民が極めて少なかった為、祭を通してＪＣをアピールすると、祭を賑やかすということは目的を達成するまでにはいきませんでした。

③のみかんカキ氷配布は、諸事情により短時間での中止を余儀なくされました。しかしながら、召し上がっていただいたお客様には、呉のみかんの美味しさを伝えることが出来ました。

④については、30分で500食を配布し、往時の味を皆様に感じていただくと同時に、大和ミュージアムで配ったパンフレットをお持ちの方を、相当数みなと祭会場内で見かけたことからも、観客の誘導という目的も果たせたと考えております。また、当時を知るお年寄りなどには特にご好評をいただいたと同時に、大和沈没前日に艦内で昼食にカレーが振舞われていたことを、初めて知ったお客様も多かったようです。

総括的に、「既存の祭を能動的にバージョンアップさせることにより、祭を通じて笑顔あふれるまちづくりの推進を実施する」という対外目的は果たせたと考えております。しかし対内目的である「既存の祭のバージョンアップに積極的に参画することで、呉ＪＣの呉における役割を再認識するとともに、まちづくり意識の更なる高揚をメンバーに促す」という部分に於いては、残念ながら充分な結果は得られませんでした。同月に行った例会に於いて「笑顔が呉の祭には必要である」という部分を２月例会に続いて再度強く推しておくべきだったと考えております。

４．事業名：笑顔のまちづくり事業２
“ヤマト魂の灯火～夏の道～”

日　時：2006年７月29日㈯　16：00～21：30

場　所：海上自衛隊呉地方総監部敷地内外

目　的：祭を通じて笑顔あふれるまちづくりの推進を実施するとともに、内部へ向けては、祭に積極的に参画することで、呉ＪＣの呉における役割を再認識するとともに、まちづくり意識の更なる高揚をメンバーに促すことを目的とした。

方　法：以下の手法を用い、祭を通じて笑顔あふれるまちづくりの推進を図りました。

①ＪＣメンバーによる和太鼓の演奏

②神楽の上演

③千の誓い灯籠

結　果：「日本を愛する心・地域を愛する心」としての「ヤマト魂」を、祭を通じて地域の皆様に笑顔と共に感じていただくべく、上記の手法を行いました。以下にその効果を述べます。

①事業１ヶ月前より太鼓の練習を行う中、参加して下さったＪＣメンバーの方々には「自分たちで祭りを盛り上げるんだ」という気概を持っていただき、また、当日の演奏で存分に市民の皆様にその想いを「ヤマト魂」として訴えることが出来た、と考えております。

花火前の演奏では、事業の開始に相応しい演奏が出来ましたし、花火終了後の送り太鼓では、眼鏡橋まで響き渡るその音色と、並べられた灯籠とが相まって幻想的な「夏の道」の実現が図れたと考えます。

②花火の直前に行ったあさひが丘神楽団による神楽の上演では、夕暮れから日没までの40分の間に、レベルの高い演舞を行っていただきました。古来より伝わる日本の伝統芸能を披露し、市民の皆様に楽しんでもらうと同時に、場所取りにせわしない方々を、落ち着いて花火を迎えられる精神状態にする効果もあったと考えます。

③紙に市民一人ひとりの「誓い・願い」を筆で書いていただく事で、改めて自分の中の「ヤマト魂」を皆様に感じていただけたと考えております。①の部分でも述べましたが、送り太鼓が鳴る中、花火終了後の帰り道に多くの灯籠が並んでいるのを見てもらうことで、呉の花火大会の独自性を打ち出せました。また、灯籠用紙を収集する過程で、市民の皆様と触れ合うことで、ＪＣメンバーには呉ＪＣの呉における役割を再認識していただけたと考えます。

以上のように、今回の事業では花火大会を利用し市民の皆様に楽しんでいただくと同時に、幻想的な雰囲気の中で「日本人で良かった・呉に来て良かった」と豊かな気持ちで笑っていただけ、従来の花火大会よりも「面白かった！行って良かった！」と振り返って思わず笑みがこぼれるような「心の笑顔」を持って帰ってもらえたと考えます。

Ⅵ　志推進共育室

室 長 報 告

志推進共育室　室長　前田　泰伸

本年度、志推進共育室では『高い志をもって皆で共に育んでいきたい』という思いからこのような室名にて出発いたしました。

アカデミー委員会では『温故知新』を念頭に、変えていかなければいけない事、また、変えてはいけない事、そしてメンバーとして伝えていかなければいけない事などを踏まえ募集活動から、ＪＣの事を良く理解して頂いたうえ入会をして頂くためのリーフレットを作成し足を使った入会活動を行った結果、15名もの人数の方が仮入会員として入会され厳格な規律規範の中で数多くの義務行事にも関らずメイク２回という成績で新入会員として向かえ入れることが出来ました。これは愛情を持った育成の他には無いものと確信している中で高い志を持った新入会員に育ったもの確信しています。

また、気概ある会員共育実践委員会では『常にトップを目指す頼もしいひとづくり』を念頭に「青年経済人としての成長」というメンバーのスキルアップを目的とした事業を展開して参りました。戦略づくり、そして戦術という、描いていたとしても具体的に言えない、具現化するためには如何したらよいかなど４回の例会やオープン委員会などを開催し、新聞を発行するなど最後には内容をピックアップしたＤＶＤを作成しメンバーが復習できる様に全員に配布いたしました。異業種のメンバーが存在する中、企業の成長には利益が必要であり利益を上げるためには「いかにお客様の心地よさを満たすかによってもたらされる」という共通点を掲げ個々の検証する判断材料になったものと確信をしています。

私の感想と致しまして、内部事業の本当の難しさを実感いたしました。仮入会員に対しては入って来た方は必ずしも同じもの求めて同じ方向に向いている訳でもございません。しかし同じ方向を向いて頂く様に教育育成をしなければいけません。仕事でも言いますが『物作りは意外に容易、人間関係が一番難しい』と言います。金銭利害の無い教育をしていくからこそ困難だと感じました。

また、スキルアップの事業に関しては、例会で多いパターンとして担当例会で今後の方向性の発表の例会が主に占める年もありますが、それは個々のメンバーの意識低下があるからこそやらざる得ない事情も御座いますが、講師例会なども含めやはり例会の場を利用してスキルアップに繋がることが志を高く持てる、きっかけになる事を確信いたしました。これも今後の判断材料して頂ければ幸いです。

最後に、志と信念を持って活動すれば必ずまちの貢献にも自分の成長にも繋がると信じてやみません。皆様に１年間のお礼と卒業生として最後まで暖かいご支援に感謝いたします。有難う御座いました。

アカデミー委員会

委員会報告

委員長　島田　幸成

本年度、アカデミー委員会では、「ＪＣの楽しさ」「ＪＣの辛さ」「ＪＣの凄さ」と「会員減少の危機」「会員拡大の必要性」を仮入会員を中心と致しまして、現役メンバーの皆様にも伝えて参りました。

年間を通じての事業内容と致しましては、まず、入会候補者の募集は全メンバーで取り組んで、いかなければならない事業であることを伝えるためのアクションを起こしました。

第１回から第３回までの各セミナーでは、私が経験したことや、諸先輩方から勉強させて頂いたことなど、伝えていかなくてはいけないことを厳格に伝えて参りました。

仮入会員担当例会では、まちづくりの楽しさと、事業を達成していく上での難しさを、研修して頂きました。私の持てる力のすべて使い、仮入会員に伝えました。

会員拡大事業では、アカデミー委員会で年間を通じて考えてきた「魅力あるＪＣ」を、アカデミー委員会メンバーと新入会員により、2007年度入会候補者に対しまして伝えました。

最後に、この一年を終えての感想ですが、セミナーや事業等で仮入会員に伝えてきたことは沢山あったと思いますが、そのセミナーや事業等に参加しないといけないと言う意識ずけをしたのは、普段の活動の中だったと思います。普段の活動の中でのメンバー間での関わりが大切だと思いました。私自身、この一年間の経験で成長させて頂いたと感じております。

皆さん、有難う御座いました。

事業報告

〔スローガン〕 **愛を持って厳格に**

事業報告

１．事業名：新入会員の募集

日　時：年間を通じて
場　所：
目　的：社団法人呉青年会議所の会員拡大
方　法：全現役メンバーによる情報収集や紹介など
結　果：15名の新入会員確保

２．事業名：新入会員募集用リーフレット作成事業

日　時：2005年11月下旬より年間を通じて
場　所：
目　的：呉青年会議所を始めとする青年会議所運動の内容説明を端的にまとめ、リーフレット形式でツール化する事により、より多くの会員による募集活動の啓発を目的とする。
方　法：当募集要項をもって青年会議所活動の内容説明を解り易く行い、団体への深い理解の基に募集活動を実施していきます。特別会員・現役会員・関係諸団体にも数多く配布して会員拡大の為、募集協力を要請していく。
結　果：15名の入会候補者の確保と、現役メンバー全員の候補者募集に対する意識を持って頂きま

した。

3．事業名：３月例会第２部　「魅力あるＪＣづくり」
日　時：2006年３月６日㈪　19：48〜20：17
場　所：シリウスシティカンコー　４Ｆ例会場
目　的：アカデミー委員会の１年間のテーマを周知していただく。
方　法：アカデミー委員会の年間事業コンセプトを、より解かり易く伝えるために現状分析や理想の姿などをパワーポイントでの解説また用いて会員減少の危機感が伝わる様な発表致しました。
結　果：この例会を通じて「自分づくり」をしていくことが「魅力あるＪＣづくり」となり、全メンバーで募集活動をして、より多くの仲間を増やすことで、より大きな夢が叶えられることを感じて頂けました。

4．事業名：入会申込者面接
日　時：2006年３月11日㈯　17：00〜19：30
場　所：クレイトンベイホテル
目　的：理事会で仮入会員を決議するため審査委員会により2006年度入会申込者の面接を行う
方　法：入会申込者による３分間スピーチと質疑応答の形式で実施致しました。
結　果：厳粛な雰囲気の中、審査を進めることができた。

5．事業名：仮入会員オリエンテーション
（ＪＣとはなんぞや！）
日　時：2006年３月24日㈮　19：00〜20：50
場　所：ビューポート呉「きんろうプラザ」大会議室
目　的：仮入会員に青年会議所の概略、基礎知識、実務、仮入会員としての姿勢を研修する。
方　法：日本青年会議所の新入会員開発マニュアルから抜粋した内容の資料を作成し、アカデミー委員会メンバーによる説明と講話により実施致しました。
また奥原顧問に参加して頂き、「自分づくり」と夢と世界今後の、ＪＣ活動に対して夢が広がるような内容で講演を御願い致しました。
結　果：手帳サイズの資料にすることにより、常に携帯して持ち歩ける事で、再確認がしやすくより理解を深めていただけたと考えます。

6．事業名：第１回自分づくりセミナー
夢が生み出す希望と力
日　時：2006年４月14日㈮　19：00〜20：30
場　所：きんろうプラザ中会議室
目　的：仮入会員には目標・夢を持って頂き今後の活動に邁進して頂くきっかけづくりを行うのと同時に、現役メンバーには、仮入会員と交流することで自分自身の青年会議所活動振り返って頂き、今後の活動に生かして頂く。
方　法：本事業のテーマである、夢が生み出す希望と力に沿って、グループ討議等を行いました。
結　果：仮入会員には自己を見つめ直すきっかけになり自分づくりへの動機付けになったと考えます。現役メンバーには自分の仮入会時を思い出すなど、自己を見つめなおし現在の自分の成長具合を把握し自分づくりの動機付けになったと考えております。

7．事業名：第２回自分づくりセミナー
「夢に向かって前向きに！」
日　時：2006年５月13日㈯　13：00〜
2006年５月14日㈰　13：30
場　所：大空山青年の家・大和ミュージアムほか
目　的：仮入会員にはまちづくりに対する夢に向かって前向きに努力する姿勢を実体験していただくと共に同期の結束をはかって頂く。
現役メンバーには事業参加を通じて仮入会員と密に接し、共に気づきを得ることで、魅力あるＪＣメンバーを目指して頂く。
方　法：呉市大空山青少年の家にて１泊２日のセミナーを実施する。これは、２日間を通して自分づくりプログラムを実施致しました。
結　果：仮入会員には、まちづくりに対する夢に向かって、前向きに努力する姿勢を実体験して頂けたと考えます。同時に同期の結束も、はかって頂けたと考えます。
現役メンバーには事業参加を通じて仮入会員と密に接し、共に気づきを得て頂けたと考えます。今後につきましても、魅力あるＪＣメンバーを目指して頂けると考えております。

8．事業名：第３回自分づくりセミナー
「夢を持って魅力あるまちづくり」
日　時：2006年７月13日㈭　18：30〜20：30
場　所：大和ミュージアム　大和ホール
目　的：自分以外の誰かのためにまちづくりの夢を持って頂くと共に、青年会議所の事業で大切な部分を学んで頂く
方　法：青年会議所の事業を組み立て行く上で大事な事業目的（コンセプト・手法・効果）を練っていくことの大切さを伝えると共に、人の意見やアドバイスを受入れて、より良い事業に再考していくことの大切さを伝えました。
結　果：仮入会員につきましては、青年会議所の事業の理念（コンセプト・タイムリーな手法・効果の大切さ）を、より分かりやすく実例をあげて説明することにより、青年会議所の事業に対して、自分自身の考えを、しっかりと持っていただく、きっかけになったと考えます。

9．事業名：10月仮入会員担当例会
「世界に誇れる港町呉の創造」
日　時：2006年10月２日㈪　19：20〜20：20
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ
目　的：インターン期間に学んだこと、青年会議所の会員として第３回までに学んだ、基礎知識などを例会で披露し例会運営を経験することに

より今後の青年会議所活動へと繋げる。
方　法：仮入会員「一期一会」の考える、まちづくりビジョン「世界に誇れる港まち呉の創造」を例会時間に発表致しました。
結　果：初めての事業を企画、実施することにより、青年会議所の正会員として成長して頂けました。

10. 事業名：会員拡大事業
「今まちの為に・自分の為に…」
日　時：2006年11月２日㈭　19：00～20：10
場　所：大和ミュージアム　大和ホール
目　的：呉青年会議所の2007年度入会候補者の募集
方　法：ＤＶＤビデオによる青年会議所の紹介とパネルディスカッション
結　果：2007年度の入会候補者募集に繋がると考えます。

気概ある会員共育実践委員会

委員会報告

委員長　吉田　真也

本年度、気概ある会員共育実践委員会では、「青年経済人としての成長」を目指し、メンバーの経営者、それに携わる者としてのスキルアップ、企業の業績向上を目的に年間事業を展開してまいりました。

しかし、年間事業計画段階から過去に例のない新しいスタイル、またメンバーの企業人としての業種も違えば、立場も違う中で当委員会の活動内容、柱となる部分は何か？模索する中、メンバーの企業人としての問題点の抽出から、『戦略づくり』先を見据えたビジョンの確立こそ、目指すべき『青年経済人としての成長』であると答えを導きだしました。

では、どうしたら青年経済人として、また自社が成長できるのか？企業が成長するためには利益を上げ続けなくてはなりません。利益を適正に得るにはどうしたらいいか。特に重要視することは、自社商品やサービスに付加価値をつけることです。付加価値とはお客さまの「心地よさの度合いで」であり、「企業の利益は、いかにお客様の心地よさを満たすかによってもたらされる」ということです。

心地よさ――それは人や企業が成長していくうえで、もっとも重要で不可欠なキーワードであり、その成長をなす柱となる要素です。

すなわち、心地よさを追求することが成長の源泉となり、成長することがまた人に心地よさをもたらします。成長と心地よさは相互補完関係にあり、その繰り返しや積み重ねによって自分の家族や社員に幸福を寄与し、社会起業家としても地域社会に貢献することができるのではないでしょうか。

その点で、自社商品、サービスの魅力とは何か？他にない自分の魅力を引き出し、多面的観点から、心地よさを提供する仕組みづくりを目指し、年間事業を展開してまいりました。人間の幸福を根本のところでつかさどるのは、経済的な満足や豊かさばかりでなく、物心両面を豊かにし、満足させる状態をつくり出す仕組みが必要であると考えます。金銭的、物質的には十分満ち足りているのに、その心地よさに欠けている――いまの日本人が幸せにみえないのは、実はこの心地よさが欠けているからではないでしょうか。

今、時代は大きな変革期にあり、社会環境や条件はどんどん変化しています。そうした時期に変化に柔軟に対応できる人、外的条件に自在に適応できる人。そういう人、企業、組織だけが成長できると考えます。

この一年間、委員長として、また一経営者としても貴重な経験をさせていただきました。一年間の活動を通して感じたことは、どんなに強い思いがあってもひとりでは実現が不可能であったと思います。確かに携帯電話、メールといった実際に顔を見ないでも物事が進めて行ける便利な時代になっていますが、一番大事なことは、相手の顔を見て、膝とひざを交えて議論する大切さ、ありがとうの感謝の気持ち、素直になって吸収することの大切さ、委員長をさせて頂いたいとことで本当に多くを学ぶことができました。

最後になりますが、様々な場面でスタッフとして支えてくれた松木副委員長、中西幹事、暖かく見守り協力してくれた委員会メンバーのみなさん、担当ラインの西本副理事長、前田室長に感謝申し上げ、委員会報告とさせていただきます。一年間、ほんとうに有難うございました。

事業報告

〔スローガン〕 **成長**

事業報告

1．事業名：成長プロセス事業
「The Growers!」（月刊誌）
日　時：３月～９月
場　所：各例会（計７回）
目　的：当委員会の考える青年経済人としての「能力開発・業績向上」に向けての情報発信
方　法：メンバー個々の「青年経済人としての能力開発・業績向上」に向けて、３～９月例会で「月刊誌　The Growers!」（Ａ４用紙）を作成し、計７回配布しました。また、フラットファイルを初回に配布し、月刊誌や当委員会の事業時に配布する資料等を綴じて頂き、メンバー個々が成長ツールとして活用していただけるようにいたしました。
内容については３・５・７・９月の担当例会と関連したものになるように検討・精査し、関連文献を参考に内容の充実を図りました。
また事務局内に「成長図書館」を設置し、戦略づくりに関連した書籍・資料を貸し出せるようにしました。月刊誌の中で現役メンバーが薦める本をインタビュー調査して紹介するコーナーも設け、その本も図書館に品揃えするようにしました。
インタビューは毎月委員会メンバーが交代で担当することで、委員会内で役割を分担して製作できるようにいたしました。
結　果：紙面にインタビュー記事やポイントを大きくまとめて記載したことで、普段あまり本を読まない方にも戦略づくりについて関心を持って読んでいただける構成にすることができ、

当委員会の考える「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた戦略構築」についてより理解していただけたことと思います。また、担当例会の内容と関連した内容にすることで担当例会の補足資料的な意味も持たせることができ、フラットファイルを利用していただくことで資料が散逸することなく、持ち帰って例会やセミナー等の復習をすることで今後の戦略づくりに役立てていただけたことと思います。

2．事業名：3月例会・第一部　「ターゲット！目標に向かって!!」

日　時：3月6日(月)　19：20〜19：50

場　所：シリウスシティカンコー　4Ｆ例会場

目　的：年間通しての、当委員会の考える「青年経済人としての成長＝能力開発・業績向上」をメンバーに提示、必要性、方向性について理解して頂く。

方　法：前半部分においてまず「青年経済人としての成長」についてなぜ呉ＪＣで取り組む必要があるのか、1月第2例会で回収した事前アンケート結果をもとにパワーポイントを利用してプレゼンテーションを行いました。その中で「企業の問題点」という観点から「成長」について当委員会の抽出ポイントを下記の3つにまとめました。

①具体的な問題点はあるが、その具体策、解決策にいたっては、明確な答えを出すのは難しい

②自分を成長させるために、やる気はあるが何をどう取り組むのかが不透明

③自分または自分の企業を成長させる具体的な先を見据えたビジョンはどの経営者にとっても必要である

その後ビデオ放映と補足説明を行い、やる気はあるが発生する問題に対して直感で対応していると、本来望んでいる結果にならないという内容のイメージを表現いたしました。

それらをふまえて当委員会の目指すべき「青年経済人としての成長」とは「業績向上に向けた戦略構築」と位置づけ、「戦略」とは未来を予測し、段階的な計画性の上に優先順位を決め、その戦略（プラン）に対して効果的な戦術（手法）をとる事が、どの経営者でも必要であり、①分析　②創造　③実行　する事が重要であると提示し、上記の内容から委員会の方向性として年間取り組み（案）を発表しました。

結　果：1月第2例会で実施した事前アンケート結果から現状分析をふまえて説明することで、呉ＪＣでなぜ「成長」について取り組む必要があるのかご理解いただけたのではないかと思います。またメンバー個々の青年経済人としての成長＝業績向上に向けた能力開発と位置づけ、成長するためにはメンバー個々のターゲット（目標）に向けた戦略構築こそが必要であり、委員会の目指す方向性として「業績向上に向けた戦略構築」を年間テーマとして取り組んでいくことを明確にできたと思います。

3．事業名：5月例会・「ミッション！戦略づくりに向けて!!」

日　時：2006年5月1日(月)　19：20〜20：20

場　所：シリウスシティカンコー　4Ｆ例会場

目　的：「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた戦略構築」を目指す強固な意志決定の基、「戦略づくり」に向けての自己分析、自社分析を通しての基盤構築。

方　法：まず3月例会で発表した内容を振り返り、「青年経済人としての成長」とは「業績向上に向けた戦略づくりが出来るようになる事」と位置づけた上で、それを年間テーマとして取り組んでゆく旨を再度説明させていただきました。そのなかで顧客感情（心を満たすこと）をベースにした戦略づくりが重要であり、顧客に対していかに心地よさを提供できるかが鍵であることを強調し、下記の二つのポイントに沿った戦略構築プログラムを配布資料に記入する方法で実施いたしました。

①顧客感情という視点からみた自己分析、戦略を創造するために必要な情報の抽出

②自社商品の分析とライフサイクルについての検討

はじめに上記のポイントを踏まえて、登壇者による説明を交えながら質問用紙に自分で記入していただき、数人の方には内容を発表していただきました。その後、戦略づくりのためのチャートとその使い方を実例を交えて二種類紹介した後、実際にそのうちの一つを使って実際に自分の会社に当てはめて考えていただき、数人の方に内容を発表していただきました。

結　果：当日事業途中でも何度も繰り返し説明しましたが、どのような業種の会社であれ、必ず何かしらの「商品」を持っており、必ずそれに対して対価をもらっています。それをより多くもらえるようにするために戦略的な発想が必要であり、その重要性に少しでも気づいていただけたことと思います。

今回の事業を通じてメンバーの皆様が自社の商品や業務の現状について考えるきっかけとなり、先を見据えたビジョンの確立と戦略構築の必要性に気づいていただけたことと確信しております。

4．事業名：7月例会・「イメージ！戦略を考える!!」

日　時：7月3日(月)　19：20〜20：20

場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　4Ｆ例会場

目　的：「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた能力構築」を目指す上で具体的な事例を基

にした戦略構築プロセスの確立を図る。

方　法：進行役の二人と解説役、ゲスト役の三人が壇上から、テレビ番組風の進行の中で下記の三点に狙いを絞って「戦略」というテーマを出来る限り、わかりやすい形でプレゼンテーションしました。

①商品戦略についての理解（５月例会の復習）
②顧客ターゲットをしぼる
③ユニークセーリングプロポジション＝他にはないセールスポイント　とは

まず前回５月例会で取り上げた内容がどのような意味を持っていたのか、再度解説をもとに理解を深めていただきました。次にメンバーのみなさんの会社が今現在選ばれている理由について、それぞれの会社の顧客を理論的にだけでなく、感情面から捉えてゆく重要性について、テーブルごとの話し合いも交えて考えていただきました。

最後に顧客は自分の会社が他社と比べてどのような優位性を持っていることで、商品を購入してくれているのか、実例を交えながらその思考プロセスについて説明いたしました。

結　果：なぜ今、私達の会社が顧客から選ばれているのか、それを考え、より選ばれるようにしてゆくようにする仕組みが「戦略」なのです。それについて少しでも考え、そして戦略を自分なりに作ってみようと思ってもらうきっかけをメンバーの皆様に提供できたことと確信しております。

ゲストや解説者との掛け合いも交えたテレビ番組風の進行や視聴者からの電話相談風のコーナー、質問用紙にメンバーの皆様に考えていただきながら直接記入いただくなど、随所に設営上の仕掛けを盛り込んだことで、当委員会が伝えたい内容をよりワクワクしながら、ご理解いただけたことと思っております。

５．事業名：９月例会・「常にトップを目指す！本気社長の経営戦略セミナー！」

日　時：９月４日㈪　19：20〜20：50
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　４Ｆ例会場
目　的：対外は「常にトップを目指す」頼もしい人づくり団体の醸成に向け、呉、近隣地域の青年経済人を対象に、頼もしい経営者の育成、地域社会に貢献できる企業の成長に向けたきっかけづくりを図ること。

対内は「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた戦略構築」を目指す上で戦略構築プロセスの確立と経営者、それに携わる者としてのスキルアップ、資質向上を図ること。

方　法：「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた戦略構築」を目指す上で戦略構築プロセスの確立と経営者、それに携わるものとしてのスキルアップ、資質向上を目的に、本例会では講師として中小企業コンサルタントの竹田陽一氏を招きセミナーを実施しました。まずはじめに上場企業の一人当たりの年間経常利益一覧を基に著名な各企業の現在の経営状態を分析・解説され、①会社は粗利益で生きていること　②その粗利益はお客からしか出ないこと　この２点を強調された上で、経営の本質はどうやってお客をつくるかにある、と説明されました。

そして規模が小さな会社はどのような経営戦略をとる必要があるのか、教材を使って下記のポイントについて講演されました。

①規模が小さな会社は「小規模１位主義」「部分１位主義」で。
②商品対策　③地域対策　④業界・客層対策
→重点となる商品や地域・業界・客層をはっきりと決め、負けている商品・不利な地域はカットして範囲を狭くする。お客をつくる目標の決め方は、中心となるものと、最大範囲の二つをはっきりと決めるのが原則。これをのり巻型の目標設定と呼ぶ。

また、業績の根本原因は社長の戦略実力にあり、それを高めることが第１の仕事であること、そのためには自社の規模にあった良い教材を手に入れ、繰り返し学習することが重要であることをたびたび強く言われていたことが印象的でした。

結　果：これまでの例会でも度々ご説明してきましたが、会社を経営していく上で「戦略構築」の重要性や必要性を先生の講演を通してメンバーの皆様に再度ご理解いただけたかと思います。また経営戦略とはどういうものなのか、どういうことをすることなのか、教材を使用した講演を実施することでより分かり易く具体的に学んでいただけたのではないでしょうか。

そして今回のセミナーに外部参加者を招いたことによって、対外目的で前述した本年度呉青年会議所としての指針、取り組みを外部の方に実感して頂けたことと確信しております。

６．事業名：成長プログラム作成事業　「STRATEGIC」〜戦略発想でトップになる〜

日　時：12月
場　所：メンバー全員に配布
目　的：「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた戦略構築」を目指し戦略構築プロセスの確立と実践に向けての一助とする。

方　法：「青年経済人としての成長＝業績向上に向けた戦略構築」を目指し、年間事業活動をまとめ、メンバー個々の戦略構築プロセスの確立と実践に向けて戦略プログラムを作成し配布しました。また、プログラムをより実践的かつ効果的に使用頂きたいと考えプログラムの内容にそった勉強会を行い、どう自分に当てはめシュミレーションしていくのか、本年度、当委員会の事業プロセスを振り返って頂きな

がら、質問シート、分析チャートを使用しプログラムの使用方法をレクチャーしました。

結　果：本年度、当委員会の事業活動をまとめ、シュミレーションして頂ける様にしたことで、メンバー個々の戦略構築プロセスの確立に向け、より実践的に活用して頂くきっかけになったと思います。

プログラムの構成内容については、パワーポイントデータをメインで使用して頂きながら、それを中心に関連資料やチャートにリンクを張ることで読み進めていただき、他のデータも内容に合わせて閲覧出来るようにしました。主に例会時で使用したチャートを使って自分の会社に当てはめながら作業してもらうことで戦略づくりを学んでいただき、解説編でそれらをフォローする構成にしたことでより理解が得られる内容になったと思います。また 3 ～ 9 月に配布した月刊誌グロワーズのバックナンバーも織り込むことで内容の充実を図ることが出来ました。また、プログラムのレクチャーをかねた勉強会を開催したことで、取り組み方、使用方法等をご理解いただき、メンバー個々の戦略構築プロセスの確立に向け、より理解・実践して頂くきっかけになったと思います。

Ⅶ　笑顔あふれる総務室

室 長 報 告

笑顔あふれる総務室　室長　宇都宮公徳

2006年度、「楽しく夢を語れる総務室の創造」をスローガンに掲げ、「笑顔あふれる総務室」を担当させて頂きました。

「規律ある組織の和推進委員会」田尻委員長が「率先垂範」をキーワードに委員会をまとめ、例会及び他委員会の事業参加を通じて、ロム内での意識向上に努めて頂きました。どこまで通じたかに関しましては、単年度では計り知れないところでありますが、ロムメンバー全員に問題点を提示できたのではないかと思っております。年当初に挙げておりました「規律ある組織の和推進事業ⅠとⅡ」では、委員長の「公益法人改革についての勉強会」を打ってみたいという想いと正副の「メンバー間の結束・メンバー家族へのフォローアップ」をしてもらいたいという想いが正面からぶつかってしまい、調整役としての力不足な自分を痛感しました。その際、委員長を始めスタッフ・委員会メンバーには力不足によるご迷惑を掛けました。正副メンバーを始め理事役員メンバーの皆様にもご迷惑を掛けました。しかし、この議論があったからこそロムメンバーへの「公益法人改革」に対する意識がより強くなったのではないかと信じております。

年間を通して規律と言うものをロムメンバーがどの様に認識をしているのか考えさせられる１年でありました。本当にありがとうございました。

「集まれ呉ＪＣ発信委員会」横山委員長は「わっしょい」をキーワードに多くの議案をこなして頂きました。昨年、委員長をさせて頂いた立場から本当に「お疲れさま」と言いたいです。今年度は、ロムからＪＣＩ常任副会頭・広島ブロック会長を同時に輩出しており、期の途中で次年度日本ＪＣ会頭輩出が決まるなど非常に広報と言うことに関して大変だったと思います。その中で広報マニュアル作成という例年にない事業も打って頂きました。ロムメンバーには、その活動が伝わりにくかったかも知れませんが、外部事業を広報するのに大きな役割を果たしたのではないかと思います。

本年度は、京都会議に始まりアスパック（高松）・高知（来呉）合同例会・サマカン（横浜）・ブロック会員大会（因島）・全国大会（郡山）・世界会議（ソウル）とすべて参加しましたが、横山委員長の「わっしょい」に象徴される勢いと委員会メンバーの多大なる協力により、無事終えることができたのではないかと思います。本当に有難うございました。

最後に室を支えて頂きました岩本副理事長　本当に有難うございました。そして室スタッフメンバー、両委員会メンバー・ご協力頂きまして有難うございました。

集まれ呉ＪＣ発信委員会

委員会報告

委員長　横山　　新

2006年度集まれ呉ＪＣ発信委員会は「わっしょい！」～ｊａｙｃｅｅとして意識をもって～をスローガンに掲げ、集まれ＝渉外、発信＝広報と２つの軸で１年間活動に取り組んで参りました。

まず、各種会議、大会の窓口となり、「おもしろい！行ってみたい！」と思えるような設営で取り組んで参りました。そしてメンバーに参加してもらい、「おもしろかった！行ってよかった！」と言って頂けるよう、邁進して参りました。ご協力ありがとうございました。また、高知ＪＣとの兄弟ＪＣ間のかかわりとして、初の兄弟ＪＣ合同ロムナイト、６月合同例会と、おもてなしのこころを持ち、メンバー間の更なる友情を深めることができたと思います。

広報活動としてもメンバー間の情報を発信する「友情の広報部屋」、デジタルとアナログの両方で活動を発信しましたホームページ、季刊誌「くれじぇいし～んぶん」、「広報ネットワーク構築事業」ではマスコミとの関係を広報部として一本化したことで、事業告知、募集、記事等のすべてを引き受け窓口となり、円滑な活動を行なえるようシステムを構築することができました。そして各種大会でのブース出展では、各出向者を輩出している呉ＪＣとして、呉の力を思い切り披露でき、盛り上がりも最高でメンバーのパワーを改めて感じた場となりました。

広報渉外系の委員会として１年間邁進し感じたことは、たとえ縁の下の力持ちの立場でいても、その効果があらわれた時の大きさはとても重要であり、喜びは人一倍に感じることができたという事でした。今後も引き継いでもらえれば、より円滑な活動が行なえると思います。

最後に１年間、ご指示下さいました副理事長、室長、そして支えてくださいました委員会スタッフ、委員会メンバーまた、ご協力頂きましたすべての人々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

事業報告

〔スローガン〕　「わっしょい！」
～ｊａｙｃｅｅとして意識をもって～

事業報告

１．事業名：2006年度年賀誌発行事業
　日　時：2006年１月１日㈰
　場　所：特別・現役会員の自宅へ配送
　目　的：特別・現役メンバーへの年賀の挨拶、また、2006年度の方向性の示唆、意識の切り替えの確認のため
　方　法：新聞のような設えで会員紹介、挨拶、事業紹介等の内容で、情報をメンバー全員に伝わるよう元日に配送した。
　結　果：元日にメンバーの手元に届いたことで、2006年度への意識の切り替え、意気込みを感じ、また、特別会員とのコミュニケーションツールとなった。

２．事業名：１月第２例会の実施
　日　時：2006年１月16日㈪
　場　所：シリウスシティ・カンコー
　目　的：本年度、当委員会の方向性を告知し、メンバーに認識してもらうため
　方　法：今年の広報・渉外の方向性を発表した。
　結　果：広報の重要性、渉外の必要性をメンバーに伝えることができた。

３．事業名：2006年度会員手帳・事業計画書作成
　日　時：2006年１月末日

場　所：特別・現役会員・諸団体へ配送する
目　的：本年度の方向性を発信し、公との連携を図るため
方　法：手帳はナンバリング、同好会スタッフ名簿、ＪＣ用語集を追記し、事業計画書はシンプルに読みやすくし、配布した。
結　果：情報を正確かつシンプルに伝えることができ、円滑な活動の一助となった。
また、事業計画書については必要な情報だけを端的に伝えることができた。

4．事業名：「集まれ呉Ｊａｙｃｅｅ！」アジア編
日　時：2006年５月27日㈯
場　所：サンポート高松
目　的：出向者支援に対しての意識を促進するため
方　法：ジャパンナイトのブース出展にて出向者支援Ｔシャツを着用し、呉市観光パンフレット、ポスター、大和ミュージアム招待チケット、呉冷麺の配布
結　果：参加者の声を聴き、呉のまちも観光スポットとして注目されていることを感じた。メンバー間の交流も図ることができ、ネットワークも広がりました。また、ブースへの来訪者も多く、出向者輩出ＬＯＭを改めて実感できた。

5．事業名：６月例会の実施
日　時：2006年６月17日㈯
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ
目　的：おもてなしのこころで交流し、兄弟ＪＣとしてメンバー間の懇親を深めるため
方　法：例会を２部構成で行ない、第１部をセレモニー、第２部を会場を変え懇親会とし、屋台の設営で呉の名物を盛りこみ、懇親を深めた。
結　果：２部構成が厳粛な場、交流の場と切り替えができた。また、メンバー間の交流もでき、更なる兄弟の絆を深めることができた。

6．事業名：広島ブロック会員大会バスツアー
日　時：2006年９月10日㈰
場　所：因島
目　的：呉をＰＲしながら、本大会への参加意識の向上、環境づくり
方　法：大和ミュージアムラッピングバスを因島で開催されたブロック会員大会会場までの移動ツールとして利用した。
結　果：呉のまちを他の土地の人々にも知ってもらうことができた。青年会議所が先導者となり呉をＰＲすることの重要性を再認識できた。

7．事業名：2006年度友情の広報部屋
日　時：１月第２例会から10月例会　例会セレモニー時
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ
目　的：メンバーのあらゆる視点からの情報を発信し、メンバー個々の人物像を浮き上がらせ、強固なメンバー間の団結を生み出すため
方　法：理事を主とするメンバーの中から毎回一人選出し、取調室の設えで、毎回変わる刑事役のメンバーが情報を引き出し発信する。
結　果：メンバーの情報を目で楽しみながら、耳で聞き、記憶に残りやすくなり、今後のメンバー間のコミュニケーションの一助となった。

8．事業名：呉ＪＣ広報ネットワークシステム構築事業
日　時：年間を通して
場　所：
目　的：呉青年会議所の活動内容を公に発信する方法のシステムづくりを定着させるため
方　法：マスコミと連携し、ネットワークの確立、継続可能なシステムの構築、それに伴うマニュアルの作成
結　果：各マスコミとの連携が構築することができ、円滑な参加者の募集、事業告知を行なう事ができた。マニュアルも作成したことで、次年度以降に引き継ぎができる。

9．事業名：季刊誌「くれじぇいしーんぶん」発行
日　時：年間４回（４月、６月、８月、10月）
場　所：特別・現役会員へ配送する
目　的：ＬＯＭ内の新発見および再考できる情報を発信することにより、活動状況を把握でき、メンバー間のコミュニケーションツールとして活用し、相互の理解・連携に役立てるため
方　法：年間４回各委員会事業、過去の事業、同好会通信、メンバーの情報をおもしろく分かりやすく伝わるように新聞形式にて配送した。
結　果：活字で情報を伝達することでわかりやすく活動を認識できた。また、新聞を通じて、特別会員にも配送したことで、現在の活動をリアルタイムに伝達でき、そのことで現役会員とのコミュニケーションツールとなった。

10．事業名：「集まれ！呉ＪＣ発信」世界編
日　時：2006年11月15日㈬
場　所：ソウル市　ａＴセンター
目　的：出向者を輩出しているのをキッカケに世界会議を体感すると同時に、そのまち「呉」「呉ＪＣ」を世界にＰＲするため
方　法：ジャパンナイトのブース出展にて出向者支援Ｔシャツを着用し、呉市観光パンフレット、休山煎餅に奥原ＥＶＰの似顔絵が入った「ショーン煎餅」の配布、がんぼ村で収穫したもち米を利用し餅つきの体感してもらい、きな粉餅にして配布、呉ＪＣ54年の歴史活動ＶＴＲの放映、奥原ＥＶＰへのメッセージボードの設置
結　果：世界中のメンバーに楽しんでもらえる、また興味を持って注目してもらえるブースとなり、盛り上がりは最高潮でした。また、活動ＶＴＲを放映、餅つきの周りは人・人・人に

囲まれその中から参加メンバー同志のコミュニケーションを図れた。奥原ＥＶＰへのメッセージボードも文字でいっぱいになり、世界中の友情を感じた。

11. 事業名：ホームページ作成・管理・更新
日　時：年間を通して
場　所：
目　的：社団法人呉青年会議所の情報･事業を発信し、活動を公にＰＲするため
方　法：月１回の更新で委員会事業、参加者の募集、出向者報告等を掲載した。
結　果：本年度はがんぼ村という継続事業、会頭予定者内定等注目されたＬＯＭになったことから、リンク数も多く、呉青年会議所の活動をよりＰＲできた。

12. 事業名：事業報告書作成
日　時：2007年２月末
場　所：特別・現役会員・諸団体等へ配布
目　的：2006年度の活動結果を検証し、次年度への引継ぎ含め作成
方　法：事業報告書として分かりやすい冊子で発行する。
結　果：2006年度の活動報告を振りかえり、今後のまちづくり活動等への協力・理解を仰ぐことができた。

13. 事業名：各種大会の窓口業務
日　時：各種大会時
場　所：各種大会会場による
目　的：出向者の支援、Ｊａｙｃｅｅとして意識の向上のため
方　法：事前広報、登録、ロムツアー、ロムナイトの開催
結　果：京都会議では高知合同ロムナイトの開催を最初に、各地の名物等を楽しめるよう「おもしろかった！」「行ってよかった！」と思えるような告知・設営を心がけた。

規律ある組織の和推進委員会

委員会報告

委員長　田尻　康人

最初に担当ラインである岩本副理事長、宇都宮室長、そして相原副委員長、岡本幹事、岡本委員、三宅委員、柚原委員、土谷委員、中谷委員、高橋委員、事務局の方々に心から感謝しお礼を申し上げます。

2006年度規律ある組織の和推進委員会は「率先垂範」をスローガンに掲げ、当委員会が自ら率先して青年会議諸活動に取り組む姿勢を見ていただき、「ルールの遵守」と「メンバー間の信頼関係の構築」のために必要な「気づき」を提供してまいりました。

また、組織の和を目的とした事業として、規律ある組織の和推進事業Ⅰ・Ⅱを開催いたしました。規律ある組織の和推進事業Ⅰでは、委員会内部の結束を強め、㈳呉青年会議所活動を円滑に進めて行く上での一助とし、規律ある組織の和推進事業Ⅱでは、ＪＣメンバーとその家族及び家族同士の相互の懇親・情報交換を深めることにより、今後の青年会議所活動のよりよい実現を図りました。結果、本筋である事業の一助になったと思います。

この１年間で委員長として、私自身、大変貴重な体験をさせていただき、青年会議所の素晴らしさを実感することができました。最初に述べたように、担当ラインの方々、スタッフ、委員会メンバー、そしてすべての青年会議所メンバーのご協力無しでは、委員長の重責を成し遂げる事はできなかったと思っております。組織である以上、どんなに強い思いがあっても１人では何もできませんし、その思いに共感し助けてくれる仲間への感謝の気持ちを忘れてはいけない事の大切さもあらためて実感しました。

厳粛で凛とした部分があり、優しさや和があり、本気で議論をぶつけ合える頼もしさがある団体だと思います。

本当に１年間、若輩者の委員長を支えてくださいましたすべての人々に感謝しお礼を申し上げます。ありがとうございました。

事業報告

〔スローガン〕 **率先垂範**

事業報告

1. 事業名：新年互礼会の実施
日　時：2006年１月６日㈮　18：30～20：30
場　所：シティプラザカンコー　４Ｆ
目　的：年初にメンバー全員の士気を高め、１年間の方向性を示唆するとともに、来賓、特別会員の方々に、㈳呉青年会議所の方向性を示唆する。
方　法：メリハリの利いた内容で、会場設営と受付、司会、運営等を担当致しました。
結　果：ご来賓の方々、特別会員の皆様と、現役メンバーとの懇親が深まり、またご参集頂いたすべての方と新年の門出を祝うことができました。また、今年度の呉青年会議所の体制と意気込みを皆さんにご覧頂いたことで、よりいっそうのご協力・ご賛同が得られるのではないかと感じました。

2. 事業名：１月第２例会　第１部　～青は藍より出でて藍より青し～
日　時：2006年１月16日㈪　19：20～19：50
場　所：シティプラザカンコー　３Ｆ例会場
目　的：年間を通しての当委員会の方向性を、メンバー全員に周知徹底する。
方　法：プレゼン形式で、原因・理由・結果と理論立てしながら、発表していく。
結　果：例会セレモニーのプレゼンテーションの中で、「何を」行うかではなく、「なぜ」行うかについての説明に終始し、与えられたルールをただ行うメンバーではなく、ルールを自らの血肉と化し実践するメンバーになれるように努めた結果、例会セレモニーの重要性や厳粛さについてメンバー一人ひとりに十分理解

していただけたものと自負しております。
さらにＪＣメンバーとして例会を通じて規律規範に対するあり方を習得していただくことは、例会のみにとどまらず全ての青年会議所活動にとって有益なものですから、今後の事業実施にとっても意味ある例会になったと思います。

3．事業名：特別会員懇親会の実施
日　時：2006年２月17日㈮　18：30～20：30
場　所：シリウスシティカンコー　４Ｆ
目　的：効率的な特別会員総会の設営及び運営、特別会員との懇親及び現役会員との交流を図り、特別会員との関係を根底から見直し、より良い先輩後輩関係を構築する。
方　法：これまでにない斬新な手法で、よりよい先輩、後輩関係を作る。
結　果：懇親会につきましては、特別会員庶務幹事主導の下、当委員会は設営のお手伝いをさせて頂く形となりました。

4．事業名：規律ある組織の和推進事業Ⅰ　SNOWWARS エピソード１　～見えざる交流～
日　時：2006年５月20日㈯　18：30～21：00
場　所：警固屋体育館
目　的：委員会内部の結束を強め、今後の㈳呉青年会議所活動を円滑に進めて行く上での一助とする。
方　法：委員会内部の結束を深めるという目的を達成するため、委員会対抗の屋内雪合戦を執り行いました。
結　果：通常このようなスポーツ大会を実施した場合、出場チームが試合休憩中にはメンバーが各自休憩を取り、委員会内部の結束は試合中でしか達成できないといったことがあります。他方、本事業で実施しました屋内雪合戦は、ルールが比較的簡明なものの、勝利するためには攻撃に徹するか、防御に徹するか、球の補給ルートをどのように確保するか、シェルターの占拠をどのように行うか、といった高い戦略性が要求されるため、相手チームの試合内容を分析したり、委員会ごとの戦略会議が必要となり、その結果試合休憩中にもかかわらず多くのメンバーが他チームの試合を観戦・分析したり、至るところで戦略会議が行われていたと思われます。これにより試合中のチームワークを発揮する場面のみならず、それ以外の場面でも委員会内部の結束がより深められ、事業目的を実現することができたと自負しております。もちろんもっとも良かった点はメンバーの誰にも怪我が無かったことに尽きます。

5．事業名：規律ある組織の和推進事業Ⅱ　セカンドインパクト　～家族の絆補完計画～
日　時：2006年８月27日㈰　11：00～15：00
場　所：呉市野外活動センター
目　的：ＪＣメンバーとその家族及び家族同士の相互の懇親・情報交換を深めることにより、今後の青年会議所活動のよりよい実現を図る。
方　法：当事業は２部構成で執り行いました。内容は、１部が家族対抗の５種目競技を行い、２部が懇親会を行いました。
結　果：バスの送迎中から第１部・第２部各開催中まで、その全てを家族単位での行動になるよう配慮した結果、家族の中で十分コミュニケーションをとる時間が得られ、また、約５家族を１グループとして行動していただいたことにより家族同士の情報交換も十分行われたと思います。特に、事故が１件も発生しなかった点がよかったです。

6．事業名：創立記念日例会の実施
日　時：2006年11月６日㈪　18：30～20：30
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　４Ｆ
目　的：社団法人呉青年会議所の創立54周年を特別会員の皆様とともに祝い、会員相互の更なる懇親を図り、2006年度社団法人呉青年会議所の活動報告の場とする。
方　法：社団法人呉青年会議所の創立記念日をお祝いするため現役会員と特別会員とで懇親会を含めた例会を催しました。その際の趣向として、①和太鼓演奏、②創立から54年までの活動報告（２部構成）を行いました。和太鼓演奏につきましては練習日４回を設け、有志による徹底した練習を実施しました。また、例年どおりではございますが、新入会員自己紹介、次年度理事役員紹介も行いました。
結　果：社団法人呉青年会議所の創立54周年を祝うために、①和太鼓演奏、②創立から54年までの活動報告（２部構成）を行いましたが、①については参加者全員が固唾を飲んで見守っていたと感じられ、お出迎えの心を十分披露できたと考えており、練習日も含めて和太鼓演奏に参加いただいた有志の方には絶大なる支援をいただいたと非常に感謝しております。また、②については奇しくも一本締めを担当された明神博先輩がご指摘されたように、参加された特別会員の皆様が自ら在籍された当時を思い返すのに寄与したと考えられ、併せて次年度には日本青年会議所会頭を輩出する節目の年になることを参加者全員が感慨を持って活動報告を見ていたと感じました。以上のことから、本年度の創立記念日例会は例年以上の効果があったと自負しております。

7．事業名：次年度担当例会の実施
日　時：2006年12月４日㈪　18：30～20：30
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　４Ｆ
目　的：2007年度の㈳呉青年会議所の方向性と組織構成の確認を行う。また、次年度各委員会のメンバー交流を行い、各委員会の次年度への出

発点として頂く。
方　法：2007年度理事長所信・基本方針の説明と組織構成の確認。
結　果：

8．事業名：卒業式の実施
日　時：2006年12月16日㈯　17：00～18：00
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　３階
目　的：2006年度社団法人呉青年会議所卒業生の功績を称え、敬意と感謝をこめて厳粛にお送りする。
方　法：厳かな卒業式の設営及び運営
結　果：

9．事業名：卒業送別会の実施
日　時：2006年12月16日㈯　18：30～21：00
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　４階
目　的：社団法人呉青年会議所に功績ある卒業生の皆様を称え、思い出に残る送別会を運営する。また、2006年度最後の例会にあたり、本年度から次年度への引継ぎを行う。
方　法：卒業生の思い出に残り、更なる親睦が深められるような送別会を行なう。
結　果：

10．事業名：例会の運営
日　時：毎例会
場　所：シティプラザカンコー・シリウスシティカンコー・シティープラザＳＵＧＩＹＡ
目　的：メンバーの意識統一をはかる事ができる厳粛で凛とした例会の運営。
方　法：毎例会ごとに事前準備をし、出欠の確認、会場設営と受付、司会、運営等を担当する。
結　果：規律・規範を重んじた厳粛で凛とした例会セレモニーをコンセプトに全例会にて定刻開催、定刻閉会を目指しました。メンバーの皆様のご協力により、１年間を通して、大きく時間オーバーする事はありませんでした。また、食事時間は最大で20分間とり、メンバー間の交流を図っていただきました。

11．事業名：総会の運営
日　時：毎総会
場　所：シティプラザカンコー・シリウスシティカンコー・シティープラザＳＵＧＩＹＡ
目　的：メンバーの意識統一をはかる事ができる円滑な総会運営。
方　法：事前に案内、資料の準備、出欠・委任状の確認、会場設営と受付、司会、運営等を担当し、議事録を作成する。
結　果：総会当日、出席者が定足数に達しているかを確認し、司会を担当し、円滑な総会を運営し議事録を作成しました。

12．事業名：スローガン垂れ幕作成事業
日　時：2005年12月５日㈪　次年度担当例会時に披露。
場　所：シティプラザ・カンコー　例会場
目　的：㈳呉青年会議所の方向性と理事長の気概を魅せメンバーの士気を高めるため。
方　法：自由で斬新なデザインのスローガン垂れ幕を例会、諸会議に掲げる。
結　果：本年度スローガンにふさわしいデザインであったため、これを毎例会掲げることによりメンバーが常に理事長の思いを感じることができると思います。
また、本年度より講じた垂れ幕の捲れ対策は、万全の結果を得られました。

13．事業名：委員会シンボル作成事業
日　時：2006年１月７日㈯　新年互礼会にて披露。
場　所：年間を通じて毎例会、各種事業、委員会開催時、その他
目　的：委員会ごとの結束を図り、㈳呉青年会議所メンバーである事の自覚を促し、事業開催時に㈳呉青年会議所の存在感をアピールするため。
方　法：例会時は例会場に掲げ、事業開催時には委員会旗として使用する。
結　果：委員会の団結と意識の向上のための重要なアイテムとなり、また、各会議場で使用されることで、外部の方に対し、青年会議所の意気込みを感じて頂いているものと思います。

14．事業名：ＪＣボックスの実施
日　時：毎例会（新年互礼会から創立記念日例会までの計12回）
場　所：例会場
目　的：例会の出席に対し社会人としての自覚と責任感を促し、メンバーの意識向上を図るため。
方　法：１月第２例会でメンバーに周知徹底し、例会ごとに受付にてＪＣボックスを実施しました。明確な理由のない前例会の欠席者、例会当日の遅刻•早退者、ＪＣバッジの未佩用者には自発的に喜捨していただきました。これは新年互礼会などの懇親会を含む例会においても同様です。
なお、８月からはＪＣボックスに関する定款諸規定を受付席に張り出しました。
結　果：2006年度ＪＣボックス実施は予定者段階から周知徹底を図ってきたことと、例会中の食事の関係上例会の出欠を明確にしなければならなくなったことから、ＪＣボックスの意義についてメンバーの認識が深まったと思われます。また、ＪＣボックス実施当初はやはり喜捨の対象であるにもかかわらず自発的な喜捨をされないメンバーがおられましたが、８月よりＪＣボックスに関する定款諸規定を張り出したことにより、その様なメンバーが減り、より一層の効果があったように思われます。

Ⅷ　セクレタリー報告

セクレタリー報告

セクレタリー　為敷　秀雄
大之木伸行
菅波　好人

セクレタリーの役割は、各種会議の設営や、様々な会議・大会時に理事長に同行する事等がありますが、各種会議に参加させて頂き感じた事は、ただ会議に参加し、話を受身になって聞いているだけではなく、ひとつ一つの議論に対し、もし自分がその立場だったらどうするかということを、考えさせていただける立場でもあったかと思います。

また、ＬＯＭを離れブロック会員会議所等に出向いた際には、他の11ＬＯＭの方との交流を深め、人脈を広げる事が出来ました。そして、理事長、専務理事の側にいる機会が多い立場である以上、セクレタリーの一挙一動も、そのＬＯＭに対する見方につながるという緊張感を、味わうことができました。

そして８月には、2007年度㈳日本青年会議所役員予定者合宿が呉の地で行われ、会議の設営、送迎等、通年では味わう事の出来ない貴重な体験をさせて頂きました。

2006年度、松本理事長のもとで勉強させて頂いた事は、これからのＪＣ活動にしっかりと活かして行き、㈳呉青年会議所の伝統を守り続けることの出来る一人となれるよう、精進して参る所存であります。

一年間貴重な経験をさせて頂き、本当に有難うございました。

Ⅸ　出向者報告

出向者報告

ＪＣＩ常任副会頭　奥原　祥司

2006年度はＪＣＩ常任副会頭としてエリアＣを担当させて頂きました。エリア内の最大の事業としてエリア会議を、５月３日～６日までカリブ海のグアドループ島という島で開催しました。参加者はエリアＢに比べると少なく、約500名のメンバーに御参加頂きました。期間中には様々なセミナーを開催しましたが、その中でも特記するべきものは、日本ＪＣから多くのメンバーによって開催頂いた「ＯＭＯＩＹＡＲＩセミナー」でした。会場では立ち見が出るほどの盛況で、真の世界平和実現に向け、利他の精神や相互理解を深める一助になり、エリア内でも「ＯＭＯＩＹＡＲＩ」の言葉が浸透出来たと思っております。高名副会頭・山本常任をはじめとする世界平和推進グループの皆様、そして長谷川委員長をはじめとするグローバルネットワーク委員会のメンバーの皆様、そしてＡＰＤＣチームの皆様にも大勢御参加頂きました。お陰を持ちまして、開会前の予備会議を含めると１週間に亘る大会を無事に終えることが出来ました。有り難う御座居ました。

「ＯＭＯＩＹＡＲＩセミナー」といえば今年は全てのエリア会議で開催頂き、私もＪＣＩサイドの人間として全てのエリアに参加し、ＯＭＯＩＹＡＲＩ運動の浸透に微力ながらお手伝いさせて頂きました。国や地域が違うと文化や価値観も違う為、どこまで理解頂けるか不安が有ったのが正直なところですが､実際に各エリア会議では大勢のメンバーの皆さんに積極的にセミナーに参加頂き、内容を理解頂けました。文化や価値観が違っても真の世界平和を願う気持ちは同じであることを改めて痛感致しました。特にエリアＡ会議の開催地であったアフリカ・チュニジアのモナスティールでは、道を歩いている私に対して現地の子ども達が「ＯＭＯＩＹＡＲＩ！」と声をかけて来たことには驚きました。老若男女全ての人達の心に届く運動だと、改めて確信致しました。

又、2004年12月にインドネシア・スマトラ島近辺で発声した大地震並びに津波の災害をきっかけに、世界各地で起きている紛争や自然災害に対する支援プログラムとして「ＪＣＩオペレーションホープ」が2005年１月から始動しておりますが、2006年はこのプログラムの議長も担っておりました。今年の最大の任務は、スマトラ島の災害に対するＪＣＩ主導の支援プログラムを実施することでしたが、エリアＢ内にて発生した災害ということでＡＰＤＣチームの皆様の絶大なる御協力を頂き、スマトラ沖のニアス島にて、子ども達のメンタルケア事業を開始することとなりました。更にこの事業をモデルケースとして、災害や紛争が起きてから支援事業を実施するまでの流れをＪＣＩの規定に盛り込むことも出来ました。

今回、ＪＣＩには２度目の出向ということで、より深い人脈を作ることが出来ました。特に常任副会頭仲間の１人であるスコット・グリンリー君が2007年度ＪＣＩ会頭に就任致しましたが、お互い気心の知れている仲ということで、今後のＪＣＩと日本ＪＣの更なる強固な関係構築、そしてＯＭＯＩＹＡＲＩ運動の展開に大きく寄与出来ると確信致します。そして、２回のＪＣＩ出向に際しては、世界会議における役員選挙の時から各種大会に対して、大変大勢のＬＯＭの皆様に御支援・御協力を頂きました。改めて御礼もしあげます。今後は更に前進することが皆様から頂いた御支援・御協力に対する恩返しの１つであると認識し、邁進致すことをお約束してＪＣＩ出向者の事業報告に代えさせて頂きます。

出向者報告

社団法人日本青年会議所中国地区　副会長
広島ブロック協議会　会長
金原　一次

2006年度広島ブロック協議会会長拝命頂き、呉青年会議所にとって、広島ブロックにとって、私の周辺のメンバーにそして私にとって、どういう成果があるのであろうか？そんな事をまずは考え続けました。

しかしながら、多くのメンバーから必然性と必要性を求められたからこそご縁が与えられた、という多くの賛同者の声が私の「情熱」を掻き立てました。

私論として、「会社」「家庭」「公益活動」の三位一体は、人生の中でいつも保たなければならない。会社が苦しいから、家庭の事情があるから、そういう環境は必ずあるものでしょうが、「公益活動」という自分以外の誰かのために、何か（国、地域）のために身を果たすことが出来ないときは、出来るときに倍以上の情熱を注ぐべきであると思っています。

しかしながら、なんとなく「事情」が多すぎて「私益活動」が目立つような事件や現象が多い事がいまの社会を歪めさせている大きな原因であると思います。

くだらない「ＪＣべき論」は私情や固定観念の塊です。しかし「守らなければならない歴史」はあります。それが各地、各人のアイデンティティであると思うのです。

できない事が多いのにも関わらず「こうあるべき」とか、いつまでも議論陶酔するのではなく、出来る方法を模索し、「守らなければならないもの」を守る方法をリーダーが示していけば、必ずこの「ＪＣ」というものは想像以上の力を発揮できる、そんな力強さを2006年度の成功から学びました。

「Let's Join Community～いま、ＪＣが動くとき」

というスローガンのもと一年間活動をしてまいりました。

１．「プライド」から生まれる社会モラルの確立と啓発
２．郷土アイデンティティの次世代への伝承
３．会員相互の交流からうまれる連携の確立

この三位一体の基本方針をもとに、郷土の発展と人材を育成に取り組んでまいりました。

いま問題とされる課題とされる会員の拡大と組織運営の効率化、そして組織の伝承、いわゆる青年会議所としていかに情熱を注ぎ続けられる体力を持続するかという問題が、これからの我々の分岐点を左右すると思います。

「新春会議」という、メンバー交流だけでなく、出向者を輩出頂くロムとの連携とモチベーションの共有する年頭の会議からはじまり、各ロムとの共催による各種メンバー交流事業、そして「ブロック」としての一番大きな意義をもつ「会員セミナー」においてはロムとロムの友情から育まれる地域連携の大切さを改めて感じさせて頂きました。

国内開催におけるＡＳＰＡＣ高松大会における「ブロックナイト」においても多大なるメンバーの参加を頂き、広島としての結束力を培いながらも、各ロムの絆に深く感謝いたします。

郷土の「ものづくり」のアイデンティティを「世界」に発信した“世界一のもみじまんじゅう”においては担当委員会の弛まない努力によって聖地「宮島」で各方面から注目を浴び、まさしく「発

信」事業として大きな成果を頂きました。
　戦後の復興の底力は、「おもいやり」から！利他の精神から導かれた、荒廃からの復興の根底は、直向な人間気質が全てを愛し、全てを受け入れることからはじまりました。
　世界で始めての原子爆弾の被災地となった事を卑下することなく、ひたすら一歩一歩歩み続ける精神は、この「日本」の成長の象徴ともなったといえる事でしょう。そんな歴史と未来を「思いやりハンドブック」という夢のバイブルに託し、未来永劫、次世代に語りつがれたいという思いをはせてまいりました。
　未来の宝物、次代を担う青少年とともに、押し付けるではなく、共に歩み、共に育み、共に未来を創っていく活動を「因島」の地で行ってまいりました。それはただ今結果がでるものではなく、10年20年後の彼らの礎となって、必ず花を咲かせてもらえると思います。
　ブロックだけのブロックではなく、地域のために、郷土のために共に同じ夢を追いかけながら相互補完していく事で、より一層頑なな地域活性ができるものと確信いたしました。
　ブロックがロムとロム、人と人の連携のまとめ役となって、ブロック事業に関しては主観、共済問わず全面的な協働体制を作っていくことでよりよい内部還流がうまれてくるものと思います。
　そういった意味から2006年度より秋季に開催した「会員大会」においては、事業のための事業、会員大会のための事業ではなく、郷土の発展と次世代創生の事業と会員相互の交流が活性化できるものと確信いたしました。

　中国地区協議会副会長については、中国地区に至ってはセット人事ではありますが地区五ブロックに大きな大きな友情の輪を広げてまいりました。
　特に中国地区のみ、地区フォーラムが開催されていないため、地区内のモチベーションを共有する場がなく、地区役員のみの交流でしたが、その地の特性や認識において格差があって「道州制」に至ってもまだまだＪＣにおいても継続的に議論をする必要性を感じました。
　公益法人法の改正に伴って、会計基準や法人としての規範が明確になった事と反し、本来の青年会議所の良き慣習が損なわれつつあります。
　「ムダ」というニュートラルな認識が出来ない場面を形骸化することが余計にＪＣの求心力を低下させているのかもしれません。
　そういった時流のデメリットに左右されることなく更なる連携、さらなる情熱をブロック協議会にそして郷土広島に注いで頂くことが、国家日本の発展にも寄与できると確信し、この一年間「呉」のサンドイッチマンとして種を撒いてまいりました。この種「広島ブロック」「中国地区」そして「日本」に恒久に花を咲き続けることを願っています。
　「呉」のロムメンバーには多大なご理解とご協力を頂き、数々の成功と友情に感謝申し上げてご報告とさせて頂きます。

　12の情熱と郷土のアイデンティティが行動を起こす！絆に満ち溢れた元気な広島、明るい未来を創ろう!!

出向者報告

広島ブロック協議会　運営専務　後迫　崇史

2006年度、㈳日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会に運営専務として出向させて頂きました。

広島ブロック協議会の年間の事業の詳細は、金原2006年度ブロック会長から報告されてると思いますので、運営団の業務と、年間の振り返りを報告させていただきます。

2006年度のブロック運営団は、財政局長に明田周士君、事務局長に児玉嘉則君、筆頭補佐に田村誠治君、補佐に兼田秀一君、道原裕一、根石剛生君、に出向していただき、各種会議懇親会の設営、運営に努めてまいりました。

年間を振り返りますと、資料の事前配信の遅れ等、細かなところに至らない点はございましたが、各ロムの理事長、専務、ブロック役員に助けていただきながら、各種事業に対しては、ブロック協議会として、大きな成果をあげることができたと思います。

松本理事長を筆頭とする呉青年会議所のメンバーには、１年間、見えるところ見えないところで、ご尽力、ご協力をいただきまして、大変感謝しております。

出向させていただいたメンバーは、そこでしか得られない沢山の経験を積ませていただきました。

これを必ずロムに持ち帰ることをお約束し、１年間のお礼と、報告に代えさせていただきます。

出向者報告

広島ブロック協議会　総務渉外委員会
委員長　中谷　克洋

2006年度、広島ブロック協議会総務渉外委員会を担当させていただきました。当ロムより、金原一次会長を筆頭に、多くのメンバーとともに広島ブロック協議会を支えるべく出向させていただきました。

予定者段階での上程や要覧の作成にはじまり、今回、初めての試みである「新春会議・新春交流会」では、一月末の忙しい中ではありましたが、大変多くのメンバーの方々に参加していただき、ブロック協議会としてよいスタートを切ることができました。また、ＪＣＩアスパック高松大会ではブロック懇親会を設営させていただき、多くのメンバーとの絆を深めることができ、ＪＣＩ世界会議ソウル大会におきましてはブースの出展をさせていただき、各国のＪＣメンバーとの交流や広島県のＰＲをさせていただき、普段経験できない多くのことを学ばせていただく機会となりました。

駆け足での一年でしたが、すべてを全うできましたのは、ご迷惑ばかりをかけてしまいましたブロック役員の皆様、ご理解とご協力ばかりを頂いたばかりでした各ロム理事長、専務理事の皆様、各ロムより出向していただきました委員会メンバーの皆様、力不足の私を支えてくれました土谷幹事、そして最後まで暖かく見守っていただきました有本副会長。皆様の支え無くしては一年間を全うすることは出来なかったと実感いたしております。

最後にブロック出向に際しまして、私に機会を与えてくださいました、呉青年会議所のメンバーの皆様にこの場をお借りいたしまして感謝いたします。ありがとうございました。

X　収支決算報告

2006年度　（社）呉青年会議所収支決算報告書

自2006年1月1日 ･至2006年12月31日〕

社団法人　呉青年会議所

理　事　長　**松本　明彦**

専務理事　**小松　義人**

事務局長　**佐伯　陽子**

【単位 :円】

（Ⅰ）一般会計の部

(1)　一般会計収支計算書

自2006年1月1日 ･至2006年12月31日〕

収入の部〕

科　目	2006年予算額	2006年決算額	過／不足△	摘　要
会費収入	18,405,000	18,017,500	-387,500	
入会金収入	1,575,000	1,575,000	0	
登録料収入	5,000,000	4,097,000	-903,000	
雑収入	560,000	498,701	-61,299	
受取利息収入	15,000	3,963	-11,037	
補助金収入	450,000	450,000	0	
販売収入	0	0	0	
(当期収入合計)	（ 26,005,000 ）	（ 24,642,164 ）	（ -1,362,836 ）	
前期繰越収支差額	3,691,571	3,691,571	0	
合　計	〔 29,696,571 〕	〔 28,333,735 〕	〔 -1,362,836 〕	

支出の部〕

科　　目	2006年予算額	2006年決算額	過△／不足	摘　　要
負　　担　　金	1,422,798	1,414,250	8,548	
事　　務　　費	8,604,000	6,704,797	1,899,203	
会　　議　　費	20,000	0	20,000	
委　員　会　事　業　費	16,650,000	14,590,106	2,059,894	
渉　　外　　費	600,000	585,000	15,000	
ＪＣ基金当期積立額	1,575,000	1,575,000	0	
外部会計人監査費	126,000	126,000	0	
退職積立金積立額	60,000	60,000	0	
修繕積立金積立額	200,000	120,000	80,000	
会費等回収不能額	0	200,000	-200,000	
予　　備　　費	438,773	0	438,773	
(当期支出合計)	(29,696,571)	(25,375,153)	(4,321,418)	
次期繰越収支差額	0	2,958,582	-2,958,582	
(うち当期収支差額)	(-3,691,571)	(-732,989)	(-2,958,582)	
合　　計	〔 29,696,571 〕	〔 28,333,735 〕	〔 1,362,836 〕	

2) 一般会計収支明細表

自2006年1月1日 ･至2006年12月31日〕

収入の部〕

科　　目	2006年予算額	2006年決算額	過／不足△	摘　　要
1. 会　費　収　入	(18,405,000)	(18,017,500)	(-387,500)	
(1) 正会員会費収入	14,100,000	13,787,500	-312,500	
(2) 特別会員会費収入	4,305,000	4,230,000	-75,000	
(3) 特別名誉会員会費収入			0	
2. 入　会　金　収　入	(1,575,000)	(1,575,000)	(0)	
(1) 正会員入会金収入	1,125,000	1,125,000	0	
(2) 特別会員入会金収入	450,000	450,000	0	
3. 登　録　料　収　入	(5,000,000)	(4,097,000)	(-903,000)	
4. 雑　　収　　入	(560,000)	(498,701)	(-61,299)	
(1) ファイン収入	460,000	337,500	-122,500	
(2) その他の雑収入	100,000	161,201	61,201	
5. 受　取　利　息　収　入	(15,000)	(3,963)	(-11,037)	
6. 補　助　金　収　入	(450,000)	(450,000)	(0)	
7. 販　　売　　収　　入	(0)	(0)	(0)	
(当期収入合計)	(26,005,000)	(24,642,164)	(-1,362,836)	
8. 前期繰越収支差額	(3,691,571)	(3,691,571)	(0)	
合　　計	〔 29,696,571 〕	〔 28,333,735 〕	〔 -1,362,836 〕	

支出の部〕

科　　目	2006年予算額	2006年決算額	過△／不足	摘　　要
1. 負　　担　　金	(1,422,798)	(1,414,250)	(8,548)	
①会　費　基　本　額	60,000	60,000	0	
②会　費　付　加　金	437,500	437,500	0	
③Ｊ　Ｃ　Ｉ　会　費	130,673	130,625	48	
④日本JC出向者負担金	60,000	60,000	0	
⑤国　際　協　力　金	173,375	173,375	0	
⑥ＪＣプレス購読料	251,250	242,750	8,500	
⑦地　区　負　担　金	40,000	40,000	0	
⑧ブロック負担金	270,000	270,000	0	
2. 事　　務　　費	(8,604,000)	(6,704,797)	(1,899,203)	
①事務局職員給与	3,140,000	3,092,605	47,395	
②福　利　厚　生　費	420,000	420,472	-472	
③旅費交通費諸手当	10,000	520	9,480	
④借　　室　　料	1,344,000	1,344,000	0	
⑤水　道　光　熱　費	300,000	154,940	145,060	
⑥消　　耗　　品　　費	1,200,000	486,479	713,521	
⑦通　　信　　費	1,150,000	413,470	736,530	
⑧印　　刷　　費	300,000	88,200	211,800	
⑨購　　読　　料	40,000	35,400	4,600	
⑩雑　　費	700,000	668,711	31,289	
3. 会　　議　　費	(20,000)	(0)	(20,000)	
4. 委　員　会　事　業　費	(16,650,000)	(14,590,106)	(2,059,894)	
①　　会	2,300,000	2,154,987	145,013	
②笑顔のまちづくり委員会	2,300,000	2,242,765	57,235	
③アカデミー委員会	1,100,000	764,447	335,553	
④気概ある会員共育実践 委)	800,000	644,357	155,643	
⑤集まれ呉JC発信委員会	3,950,000	3,591,413	358,587	
⑥規律ある組織の和推進 委)	6,200,000	5,192,137	1,007,863	
			0	
			0	
5. 渉　　外　　費	(600,000)	(585,000)	(15,000)	
6. 退職積立金積立額	(60,000)	(60,000)	(0)	
7. 修繕積立金積立額	(200,000)	(120,000)	(80,000)	
8. 会　計　監　査　費	(126,000)	(126,000)	(0)	
9. ＪＣ基金積立額	(1,575,000)	(1,575,000)	(0)	
10 会費等回収不能額	(0)	(200,000)	(-200,000)	
①一般会費回収不能額		200,000	-200,000	
②その他回収不能額			0	
11. 予　　備　　費	(438,773)	(0)	(438,773)	
(当期支出合計)	(29,696,571)	(25,375,153)	(4,321,418)	
12 当　期　収　支　差　額	(-3,691,571)	(-732,989)	(-2,958,582)	
13 次期繰越収支差額	(-3,691,571)	(2,958,582)	(-6,650,153)	
①前期繰越収支差額		3,691,571	-3,691,571	
②当　期　収　支　差　額	-3,691,571	-732,989	-2,958,582	
合　　計	〔 29,696,571 〕	〔 28,333,735 〕	〔 1,362,836 〕	

(3) 貸借対照表（一般会計）

〔2006年12月31日現在〕

借方科目	金額	貸方科目	金額
1. 現金	396,820	1. 未払金	338,480
2. 普通預金	3,038,331	2. 供託金	1,198,089
3. 定期預金	12,623,940	3. JC基金	10,793,266
4. 未収金	1,060,000	4. 職員退職積立金	1,590,000
		5. 修繕積立金	240,674
		6. 前期繰越収支差額	3,691,571
		7. 当期収支差額	-732,989
借方合計	17,119,091	貸方合計	17,119,091

(4) 財産目録（一般会計）

〔2006年12月31日現在〕

財産の内訳				
科目	内訳			金額
1. 現金	手元在高			396,820
2. 普通預金				
	呉信用金庫 本店	No. 0456381	1,203,131	
	もみじ銀行 呉営業部	No. 2248674	856,637	
	広島銀行 呉支店	No. 0599404	978,563	3,038,331
3. 定期預金				
	呉信用金庫 本店	No. 0062, 080他6件	6,683,266	
	もみじ銀行 呉営業部	3件	840,000	
	広島銀行 呉支店	No. 3045298	5,100,674	12,623,940
4. 未収金				
	呉市補助金未収金		450,000	
	会費未収金		610,000	1,060,000
財産の額）				17,119,091
債務の内訳				
1. 未払金				
	2006年事業報告書作成費・送料	㈱ユニックス		338,480
債務の額）				338,480
《正味純財産の額》				16,780,611

(5) JC基金増減計算書

〔自2006年1月1日・至2006年12月31日〕

科目	当期取崩額	当期積立額		繰越基金の額
1. 前期繰越基金				9,218,266
2. 当期基金増加額		1,575,000		1,575,000
3. 当期基金減少額				0
4. 次期繰越基金				10,793,266

(6) 収支差額処分計算書

〔2006年12月31日現在〕

1. 次期繰越収支差額
   (1) 前期繰越収支差額 3,691,571
   (2) 当期収支差額 -732,989 2,958,582

   上記のとおり全額次期に繰越しすることとする。
2. 次期繰越収支差額 2,958,582

様式３-１　　（一般会計の部）　　《社団法人呉青年会議所》

正味財産増減計算表

〔自2006年1月1日 ・至2006年12月31日〕

【単位：円】

科目	金額		
Ⅰ．増加の部			
1. 資産増加額		1,811,000	
(1) 定期預金増加額	1,755,000		
(2) 未収金増加額	56,000		
2. 負債減少額		0	
増加額合計		（ 1,811,000 ）	（ 1,811,000 ）
Ⅱ．減少の部			
1. 資産減少額		1,230,100	
(1) 現金減少額	115,817		
(2) 普通預金減少額	1,114,283		
2. 負債増加額		334,726	
(1) 未払金増加額	334,726		
減少額合計		（ 1,564,826 ）	（ 1,564,826 ）
当期正味財産増加額			（ 246,174 ）
前期繰越正味財産額			（ 16,534,437 ）
期末正味財産合計額			〔 16,780,611 〕

様式９-１　　《社団法人呉青年会議所》

正味財産増減計算表総括表

〔自2006年1月1日 ・至2006年12月31日〕

【単位：円】

科目	合計	一般会計	特別会計
Ⅰ．増加の部			
1. 大科目別記載			
(1) 資産増加額	1,811,000	1,811,000	
(2) 負債減少額			
増加額合計	1,811,000	1,811,000	
Ⅱ．減少の部			
1. 大科目別記載			
(1) 資産減少額	1,230,100	1,230,100	
(2) 負債増加額	334,726	334,726	
減少額合計	1,564,826	1,564,826	
当期正味財産増加額	246,174	246,174	
前期繰越正味財産額	16,534,437	16,534,437	
期末正味財産合計額	16,780,611	16,780,611	

様式８　　《社団法人呉青年会議所》

収支計算書総括表

〔自2006年1月1日 ・至2006年12月31日〕

【単位 :円】

科　　目	合計	一般会計	特別会計
Ⅰ. 収入の部			
1. 大科目別記載			
当期収入合計①	24,642,164	24,642,164	
前期繰越収支差額	3,691,571	3,691,571	
収入合計	28,333,735	28,333,735	
Ⅱ. 支出の部			
1. 大科目別記載			
当期支出合計②	25,375,153	25,375,153	
当期収支差額①-②	-732,989	-732,989	
次期繰越収支差額	2,958,582	2,958,582	
支出・繰越差額合計	28,333,735	28,333,735	

様式10　　《社団法人呉青年会議所》

貸借対照表総括表

〔2006年12月31日現在〕

【単位 :円】

科　　目	合計	一般会計	特別会計
Ⅰ. 資産の部			
1. 大科目別記載	17,119,091	17,119,091	
資産合計	17,119,091	17,119,091	
Ⅱ. 負債の部			
1. 大科目別記載	338,480	338,480	
負債合計	338,480	338,480	
Ⅲ. 正味財産の部			
正味財産	16,780,611	16,780,611	
負債及び正味財産	17,119,091	17,119,091	

監 査 報 告 書

2006年度 社団法人 呉青年会議所に係る収支決算報告書について監査した結果、上記のとおり相違ないことを報告します。

2007年1月25日

社団法人 呉青年会議所 《会計監査》

監 事 船尾 慎

監 事 清水 秀起

監 査 報 告 書

社団法人 呉青年会議所 御中

上記、社団法人 呉青年会議所2006年度収支決算報告書に関して、本職は補助者3名をもって、一般会計及び特別会計における、現金の実査、諸預金の残高確認、諸帳簿の記帳確認、証憑書類・関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正、適法に処理が為され、且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。

2007年1月25日

広島県呉市中通2丁目4番14号
武安会計事務所
監査人・税理士 武安紘二

社団法人　呉青年会議所

事務局　〒737-0045
呉市本通２丁目６番３号　商工会議所ビル５Ｆ
TEL(0823)21－1081　FAX(0823)21－0800
http://www.kure-jc.or.jp/
e-mail info@kure-jc.or.jp